

流域の人々と歩む月刊誌

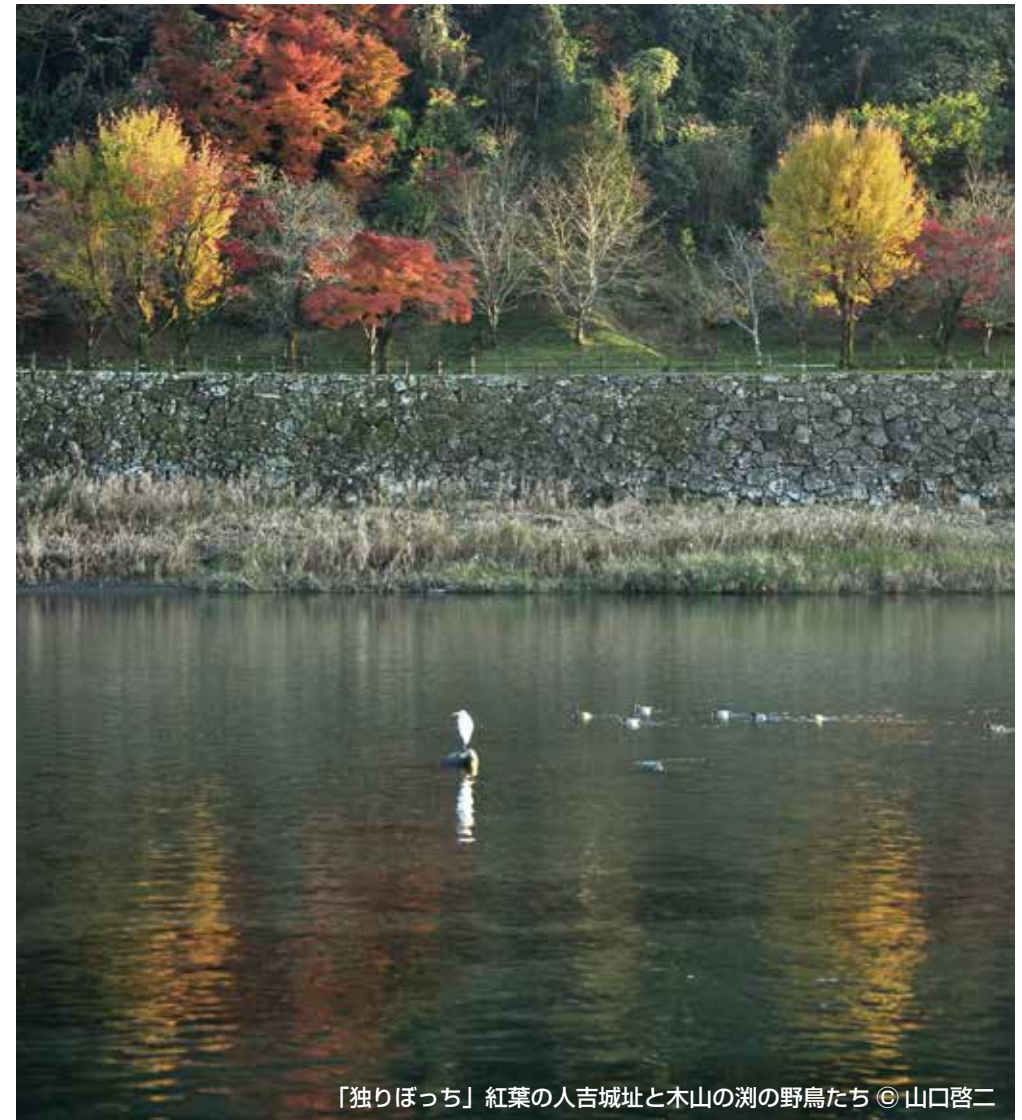
くまがわ春秋

2019

11

第44号

秋空のもと、笑いはじけよう



「独りぼっち」紅葉の人吉城址と木山の渚の野鳥たち © 山口啓二

月に願いを。

織月
せんげつ

Japanese Traditional Rice Shochu
SENGETSU



織月城（人吉城跡）にて撮影

織月酒造株式会社
SENGETSU SHUZO CO., LTD.

〒868-0052 熊本県人吉市新町一番地 TEL 0966-22-3207

飲酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁止されています。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発達に悪影響を与えるおそれがあります。

<http://www.sengetsu.co.jp/>



雑誌 81779-11-9



4910817791199
00500

月刊 くまがわ春秋 第44号 2019年11月9日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
<http://www.hitooyoshi.co.jp/> info@hitooyoshi.co.jp

定価 550円

本体 500円

最近のおもな出来事

- 10月6日(日)
▽田んぼの学校in百太郎溝(多良木町多目的研修センター集合)
- 10月9日(水)
▽青井阿蘇神社おくんち祭り神幸行列(人吉市街地)
- 10月13日(日)
▽第8回とっておきの音楽祭・第25回人吉ふれあい百円商店街(人吉市中心市街地)
- 10月19日(土)
▽織月カップテニス大会(村山公園テニスコート)
- ▽第66回人吉球磨総合美展(24日、人吉市スポーツパレス)
- ▽ふれあいまつりくまむら(20日、球磨村総合運動公園)
- 10月20日(日)
▽あさぎり町福祉まつり(須恵文化ホール)
- ▽人吉くま映画文化協会第109回名画会「最強のふたり」(あさぎり町深田せきれい館)
- 10月27日(日)
▽「日本でもっとも豊かな隠れ里」サイクリングinひとよし球磨(人吉城跡ふるさと歴史の広場発着の3コース)
- ▽第4回さがら産業文化祭(相良村総合体育館)
- ▽第17回球磨川幸福マラソン大会(あさぎり町須恵文化ホール発着)
- 11月4日(日)
▽SL人吉10周年記念最終運行感謝セレモニー(JR人吉駅)

11月号(第44号) 目次

- 田んぼの学校in百太郎溝…3
くまがわの神さん仏さん…39 宮原信晃…4
柳人があじわう漱石俳句…44 いわさき楊子…7
福井弘氏との22年間 松本晋一…22
あがっ段…41 上杉芳野…28
「戦地の便り」に見る家族の絆…4 尾方保之…30
記憶の落ち穂…43 坂本福治…47
「吉田松陰の心」が繋ぐ長州と肥後相良 富永和信…55
漢和字典は面白い…27 鶴上寛治…58
鶴鶴短歌会 十月詠草…59

ツクシイバラ

- ツクシイバラの香りを音楽に 吉川万里…8
まちを元気にする守り人 上水樽 昌幸…9
前原勘次郎先生のこと 鶴田隆一…11
ツクシイバラの里 音明屋…13

秋空のもと、笑いはじけよう

- 上田精一『平和歌集 生きる!』を読む
上村雄一…24

今月の一言

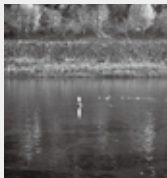
『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より

自分の過去の悪業を善によって覆う人は、雲間を洩れる月のように、闇の世界を照らすであらう。
(仏陀の言葉)

表紙写真

「独りぼっち」

(紅葉の人吉城址と木山の渚の野鳥たち)
人吉城址が色づき始め、いよいよ冬の到来を感じさせる季節になった。冬の球磨川でも、いろいろな野鳥が見られるが、この日はシラサギとマガモが現れ、それぞれの暮らしの一端を垣間見ることが出来た。



撮影/山口啓二(人吉市)

故・渋谷敦先生

- 熊本県近代文化功労者に選ばれる…42
渋谷先生、最高です 前田一洋…44
渋谷敦先生受賞によせて 益田啓三…46

うた・歌・唄

- 「上り口説」井上トシ…48
「ハーヴェストの頃」あるぼ…50
「高田渡の世界」鮎川 學…51
「ドニー・フリッツ」川邊敬子…52



本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅店)
■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

溝の生態調査や農業体験



参加者全員での記念撮影 (写真提供: 水土里ネット百太郎溝)

田んぼの学校 in 百太郎溝

親子で秋の一日を満喫

子どもたちが学習や体験を通して水・農・食の大切さを学ぶ「田んぼの学校 in 百太郎溝」が10月6日、多

良木町内で開かれ、八代市や人吉球磨などから参加した親子35人が、同溝の学習や生態調査、稲刈りなどを体験した。

主催は水土里ネット百太郎溝(岡村文明理事長)で、本誌など後援。百太郎溝は幸野溝と共に2016年11月に「世界かんがい遺産」に選定された水利施設で、農業用水の確保のほか防災の役目も持っている。

集合場所の多良木町多目的研修センターで学習用DVDの鑑賞や南陵高校生徒による研究発表などで学んだあと、百太郎溝を歩きながら見学。溝ウォーク



百太郎溝での生態調査する子どもたち

では球磨湿地研究会の一柳英隆さんの指導による生態調査が行われ、水の中に入って魚や水中生物を捕まえた後、用水路の中の生き物について学習した。

昼食後は、同町牛島地区の水田で稲刈りをしたり、農業機械の乗車体験をして秋の一日を楽しんだ。

巻頭言

国語辞典の行方

JR豊肥線を利用する機会があった。学生の姿が目立った。うらやましく思った。学生がいるだけで活気を感じる。独和・和英辞典を片手にドイツ語の勉強をしている学生もいた。必死に勉強していた。辞典が最初に目に入った。ドイツ語を勉強しはじめたばかりの学生だとすぐに分かった。使用している辞典で学生の語学力はおよその見当はつく。「きれいな辞典」であった。使い込んでいないことも分かった。その学生にとってドイツ語はそれほど重要でないのだろう。そのことが悪いわけではない。ほとんどの人にとってドイツ語は日常生活で使用しない言葉で、凡庸に考えれば、勉強する必要もないようにみえる。大学が学生に非日常的な言葉の勉強を求める理由は十分にあるのだが、それには触れないでおこう。未知の言語に接するとき辞典があると助かる。場合によっては手放せなくなる。くりかえし利用し手垢だらけになる。そういう体験は多くの人がしてきただろう。ドイツ語だけでなく、英語も同じ。

思い起こせば英和辞典、和英辞典に信じられないほどにお世話になった。いつも手元におきボロボロになるまで使い、幾度か買い替えた。国語辞典はどうか。それほどには利用しなかった。漢和辞典を引く機会が断然多かった。それでも机に必ずおいていた。日本語は母国語だが母語ではなく、それほどに自由な言葉ではないことによる。「広辞苑にあれば」ではじめる文章が多用される時期があったが、同じ理由によるのだろう。広辞苑は日本語の基準であった。昨年、第七版が発行されたとき、予想以上に広辞苑を求める人がいた。広辞苑の権威性は今でも失われていないのだろう。広辞苑は中辞典である。「三国・『新解』」のような小辞典はどうか。電子辞書、パソコン、スマホの普及にともない国語辞典の利用者は急減していると聞く。本当であろうか。11月22日に、『岩波国語辞典 第八版』が販売される。知人は購入しないと云う。世間はどうかであろうか。

(春秋)

くまがわの神さん仏さん 39

残された一枚の領収書

— 名石工、石山光次郎に捧ぐ —

宮原信晃

どんよりと重い空が天を包んでいた。

人吉市は蓑野町の山寄りの畑の中

に墓所がある。細く折れ曲がった農道を私の車の車体の幅がすれすれで進む。道の両脇には竹や雑草が生い



明治初期のおごそかな顔立ち、ほおの膨らみが何ともいえない名石工（石山平吉）の作。 観音院

茂り車の両脇の車体に細かい傷がギリリ、ザザと入るのがわかった。でも、行かなきゃならない。何とか行き着いた。農道の脇に車を停めて、車内から数珠とメモ用紙と

ボールペンを持ち出してあぜ道に入って墓所に着いた。どうしても解決しなければならぬことを、解くためにここへ来た。石山家の墓という墓標を中心に五つの墓が取り囲んでいた。

前日の午後から、人吉宝石店の隣にある観音院へ行った。ここは相良三十三観音巡りの札所で、お彼岸ならばたくさんの方々がお参りにこられる寺院。

御本堂の左に石仏がずらりと並んでいる。真横に六体の石仏、奥に三体の石仏、間に石塔という狭い空間である。

普通の人なら、石仏を見ると全部がお地蔵さんに見えるらしい。でも私みたいに、変人の特殊能力

か?と、石山光次郎の墓へ向かったのだった。

石山家の墓は五つの大小の墓が真四角の形を造り、それぞれに法名などが刻んであった。

明治十五年石山平吉子、行年四歳徳蔵。

明治三十九年、戦死されたお方。

大正元年平吉妻、年六十九歳。

平吉のお子さんや奥様の墓は確

認出来ても、肝心の平吉の墓は見つけることが出来なかった。

ただ、息子であっただろう石山光次郎が大正六年三月に五十二歳で亡くなった墓標はみる事が出来た。

で、これは何とか、あれは何とかなど、石仏の尊名をクイズ様式で当てていくのを得意としている者はしつこい。この十一面観音様には頭に十一面のお顔が見えないなあとか、マリア様の石塔がこれかな〜などと、石仏の前に立つたら探偵のように、疑心暗鬼で石仏を睨む。そこで気になるお地蔵さんがおられた。何ともいわれぬ、おごそかな顔立ち。特徴のある顎の丸さ。それだけでは

ない。一般のお地蔵さんなら、右手に錫杖、左手に宝珠をお持ちなのに、このお地蔵様は反対なのだ。不思議だなあ〜と台座を見ると「明治九年 石工、石山平吉」とあった。

私が知っているのは「石山光次郎」という明治の終わり頃頃の石工の名人なのだ。もしか、石山平吉は光次郎の親か? もしそうなら、この人吉球磨、唯一の石工の名人ではない



大正五年建立「人吉新四国八十八仏」観音院



石山光次郎作、蓑野町にあり

柳人があじわう漱石俳句

— (44) —

いわさき楊子



目からウロコの個人情報

- ・ 慶応3年、旧暦1月8日生れ。母40歳のときの子で五男。本名は夏目金之助。漱石という名は22歳のときはじめて使った。
- ・ 28歳のとき「ジャパンメール」の記者を志願して不採用になる。
- ・ 正月に毎年旅をしたのは、正月に大勢の学生たちが年始に家に来て閉口したから。家にいないのが一番ということ。

旅にして申訳なく暮るゝ年

(漱石31歳)

- ・ ヘマの多かった鏡子夫人を「オタンチンノパレオロガス」と言っただけだった。
- ・ うま味調味料・L-グルタミン酸ナトリウムの発見者の池田菊苗とロンドン留学時に同じ下宿だったことがある。
- ・ タカジャスターゼという胃薬を飲んでた。

酸多き胃を患ひてや秋の雨

(漱石40歳)

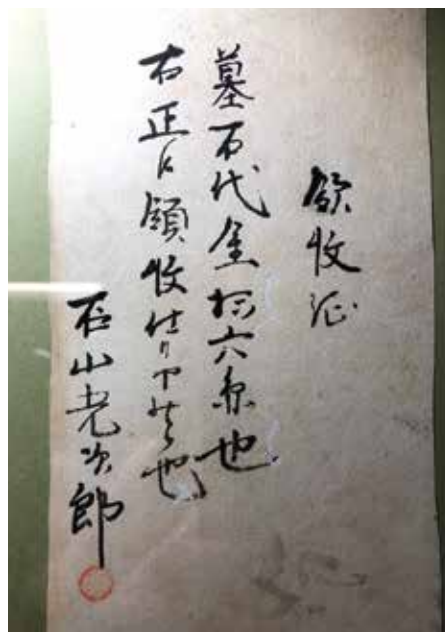
- ・ 鏡子が四女愛子を出産するときに助産婦が間に合わず出産を手助けした。
- ・ 胃だけではなく痔も悪くしており40歳までに切開をした。
- ・ 生涯借家住まいだった。
- ・ 最期に口にしたのはぶどう酒だった。
- ・ 雑司ヶ谷墓地に墓がある。戒名は文献院古道漱石居士。
- ・ 痂瘡^{ほうそう}の痕の顔のあばたを気にしていて、現在残っている写真はすべて修正されている。亡くなった後にとられたデスマスクにはその痕がある。
- ・ 身長158・8センチ（五尺二寸四分）。体重53kg。生涯、体格はあまり変わらなかった。

高跳びは身長別にしてほしい公園になつてお墓があかぬける

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

この石山光次郎に係わる一枚の領収書が益田啓三さんから届いた。

その領収書は石山光次郎が書いた直筆のもので、相良家（人吉城主）の墓の修理をした時の領収書である。その金額の中から、間違いない、私の祖父に賃金が支払われ、宮原家がその賃金で喰つていけたことになる。我が家は代々石屋で祖父は



相良家に残っていた明治の終わり頃の領収書

光次郎の弟子なのであった。

この石山光次郎は、村山の観蓮寺の参道の四国八十八仏や南泉田町の大満宮の寝牛、東林寺の墓地にある馬頭観音を制作した。そして人吉市の各寺や山江の高寺院の十二ヶ所のお寺にある大正五年に建立された「人吉新四国八十八仏」の石仏も光次郎が刻んだのではないだろう

かと思う。た
くさんの弟子達
の石仏の制作を
指導して翌年
三月に五十二
歳で成仏した
石山光次郎。
そして、その親
であろう石山
平吉親子の石

仏や灯籠や墓など、記録しなければならぬ責務が私にはあるのではないかとも思う。

益田啓三さんはどこの墓所にいても、無縁仏の場所で穴掘りしても、「どうもなか」とおつしやるが、私が墓所で調査のまねごとでもすると、どうも帰宅したら背中がゾクゾクする。

お墓や石仏の調査など、これからすると、私にどんな人生が待っているか、怖いような、嬉しいような気がする。罰かぶらんごと、仏壇に毎日手を合わせている。

【みやはら・のぶあき／FBお地藏さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】

ツクシイバラの香りを音楽に

VIENTO 吉川万里



演奏する VIENTO の竹口美紀さんと吉川万里さん

「花は自ら咲く場所を決める」

ツクシイバラの花の佇まいに向き合うと、そんな言葉を思い出します。

ツクシイバラの復活までの経緯をささやかながら見守らせて頂いた私たちにとって、現在の球磨川河畔の様子はまるで夢のようです。

今と同じように川沿いにツクシイバラが群生していたかつての球磨川。いつしかピンクの面は点になり、「絶滅の危機」という言葉が頭をよぎるほどに、花の数が減少していた。まさにその頃、私たち VIENTO

NTO はツクシイバラに想いを馳せるコンサートに依頼を頂きました。

初めて出会うその花は、ほかのバラのような華美な美しさとは違いました。何とも清楚で、こちらを見つめ返してくるような、生命力に溢れた力強さを併せ持った美しさにすっかり引き込まれ、ツクシイバラをイメージした曲がすなわちと生まれました。花の可愛らしさ、みずみずしさをオカリナで表現し、野性的に生きる力をシンセサイザーの厚みのある音で表し、それを初めてツクシイバラの横で演奏させていただいた時は、何とも言えない花との一体感を感じました。

それからの花の増加はめまぐるしく、毎年演奏のために何うたびに河川敷の点であった花の株はピンク

色の面になり、一年経つごとにその面は広がっていききました。

絶滅の危機にさらされた花は、人がどれだけ想いを寄せても残念ながら消滅してしまう事が多い中、このツクシイバラがこれだけの復活を遂げることができたのは花を見守り、保護しようとする人々の熱き想いの

賜物でしょう。

今や町中がツクシイバラの香りに包まれている。そんなイメージが定着した球磨川沿いは、私たちの憧れです。

花の文化は、心の文化が昇華して、芸術的な絵画になり、音楽になり、これから様々な芸術が生まれ

るに違いありません。

私たちも、ツクシイバラを見守る仲間の一員として、これからもこの花を称え、この花の香りが漂うような音楽を奏でていきたいと思っています。

【よしかわ・ばんり／阿蘇郡西原村】

まちを元気にする守り人

国土交通省宮崎河川国道事務所 上水樽 昌幸

2016年4月の日曜日、私は錦町の木上駅にほど近い球磨川の河川敷にいた。通称「おもてなし広場」と言われる場所だ。時を遡ること約2週間、4月期の転勤に先立ち業務

の引継ぎ打合せに人吉市を訪れた際「球磨川ツクシイバラの会」の桑原会長にご挨拶に伺った。

初めてお会いした桑原会長はすぐに気さくな方だと分かったが、「今度

4月にツクシイバラの除草作業を行うので良かったら参加ください」とお誘い頂いたその言葉とは裏腹に、その目の奥では「絶対に来て！」といったメッセージを放っていたような気がした。だからというわけではないが、ツクシイバラの除草作業に参加させて貰っていたのだった。

除草作業には会員の他、地域や企

業の方など、多くの方が参加されており、地域からも応援されている活動だと感じた。そして5月下旬、初めて花を見たが、普段良く目にする薔薇とは違い、小さく可憐で、いい香りを漂わせていた。この年は熊本地震が発生したことから、いつもより規模を縮小しておもてなしをされていたが、特に手作りの漬物は美味しかった。

このような球磨川ツクシイバラの会は、桑原会長をはじめ高田副会長（現在は桑原副会長）、遠山事務局長、尾方おもてなし部長が中心となって活動されている団体で、先の活動の他、野外コンサートや、保育園児や観光客に向けた説明会、絵手紙コンテストなど様々な活動をされており、2015年には国土交通省の河川協

力団体に指定された。中心メンバーで唯一男性の遠山事務局長は「肩身が狭い」といいながらも、パワフルな女性陣と渡り合いつつ楽しく活動されている。そのような団体の活動は地域の活性化にも繋がっていく。

2006年3月、球磨川ツクシイバラの会がツクシイバラの保全活動を開始したことを機に、錦町の町花がツクシイバラに変更され、くま川鉄道木上駅の副名に「ツクシイバラの里」と命名され、ツクシイバラランニング大会やウォーキング大会などの催し、ツクシイバラを使ったりリキュールが販売されるなど、自生地以外の場所でも町づくりにも寄与している。

ツクシイバラ公式発見からちょうど100年の節目の年となる2017年、球磨川ツクシイバラ会

の保全活動や町づくりにも寄与していることが評価され、国土交通省が実施している手づくり郷土（ふるさと）賞を受賞された。改めてお祝いを申し上げるとともに、会の活動は貴重な植物を保全し、町の活性化につなげ、人を育てる素晴らしい活動であることを実感した。

今年は公式発見から102年目。98年後の公式発見200年に向けてまた進み始めたばかりだが、貴重で可憐な花を咲かせ人々を魅了するツクシイバラを未来の子孫に受け継いでいけるよう、この会の活動がこれから楽しく末永く続いていくことを願うとともに、今後も微力ながら応援していきたい。

【かみみずたる・まさゆき／宮崎市】

前原勘次郎先生のこと

鶴田隆一

実は、私がツクシイバラの名前やその群生地が、自分が高校まで育った錦町の木上地区に存在していることを知ってから、まだ3年も経っていません。また、ツクシイバラを最

初に発見したのは、私の母の女学校時代の恩師であった熊本県出身の植物学者であることを、私は65歳を過ぎてから初めて知ったのでした。



【前原勘次郎（まえはら・かんじろう）】
明治23年（1890）玉名生まれ。人吉高等女学校（現在の人吉高校）の教諭時代に旧上村（現あさぎり町）でツクシイバラを採集。あさぎり町の町花「リュウキンカ」の採集者としても有名。昭和28年（1953）、熊本県教育委員会は「熊本県の偉人」に認定。

私は2017年の3月まで30年、横浜市に居住しておりましたが、母が90歳の高齢となりましたので同年4月に、母が長年一人で守っていた錦町木上の実家に戻り同居を始めました。引越した荷物もまだ開梱が終わっていないゴールデンウイークの頃、新聞にツクシイバラの群生地の記事がありましたので、母にツクシイバラを知っているかと尋ねると、母が人吉高等女学校時代に授業を受けていた前原勘次郎という先生が免田か深田（今のあさぎり町）辺りで初めて発見した野生のバラだと教えてくれました。そして、その発見者の恩師についての話が止まらなくなったのでした。

母は1927（昭和2）年、多良木町黒肥地の生まれで、人吉高

等女学校（現人吉高校）に、国鉄湯前線（今のくま川鉄道）で通学をし、昭和18年に卒業しました。前原勘次郎氏はクラス担任ではなく、理科（科目は生物か？）の先生で、既に植物の研究では有名で、その先生の授業を受けていたのとのことでした。そうして、卒業写真集を探し出してきて、「これが、そんな頃の勘次郎さんよ」と自慢そうに当時の写真を、嬉しそうに見せてくれました。

また、その先生が学校が休みの時、黒肥地の母の実家を訪ねてこられた時のことを話し出しました。あの夏の日の午後、黒肥地辺りで採集した植物を収めたブリキ製の胴乱という容器を肩から下げて、「喉が渴

いたので水を貰えんかね」と、ひょうこり実家に顔を出されたとのこと。その頃、先生は既に50歳位で、熱い中、歩きまわられたのでお疲れだろうと思い、砂糖を水に溶かして差し上げると、一口だけ飲んで、「これより普通の水の方がよか」と言われたので、真水に入れ替えたのだと、懐かしそうに話してくれました。

今の私の家には祖父の生前から白い花のイバラがあり、その後植えられた数種類のバラもありますが、私は初めて聞くツクシイバラという名前に興味が湧き、群生地に行ってみたものの、その時は、まだ殆ど咲いておりませんでした。

後日、群生地を見に行くと「おもてなし」が始まつており、その「お

もてなし」を受け、地元のツクシイバラを守っている人たちの心意気に引かれ、その後は群生地の雑草除去やゴミ除去作業にはできるだけ参加をさせて頂くと共に、国交相の許可・承認を得て群生地を空から撮影した写真や動画をSNSに投稿するなどして、ツクシイバラの紹介も時々させて頂いております。母自慢の恩師が発見されたツクシイバラを、もっと多くの人たちに知って頂ければと願っております。

【つるた・りゅういち／球磨郡錦町】

ツクシイバラの里

音明屋

新緑が映える5月に、鮮やかに咲き誇る、ここにしか咲かないツクシイバラ。

そのツクシイバラの群生地にて、毎年お世話になっている球磨人吉の歌い人「音明屋^{おとめや}」です。

この地を訪れる人達がツクシイバラと一緒に写真を収めたり、時にはその花々に顔を近づけ見入ったり。そんなやさしい風景を、心地よい空間の中で、微力ながら楽しい演出が出来ればと、音楽の仕掛け人としてメンバー一同そんな思いで演奏させて頂いています。

また同様にこのツクシイバラを守り育てるため、日々取り組んでおられる保存会の皆様にもエールを送る

意味で歌わせて頂いております。毎回の事ながらアットホームな雰囲気の中、リラックスしながら演奏出来るのも魅力の一つで、保存会の皆様のお蔭だとこの場をお借りして感謝申し上げます。

屋外での開催ですが、今まで天候に左右されず、このツクシイバラの地で私達も不特定多数の方々に音楽を聴いて頂いております。その中で沢山の出逢いもありました。私達の代表曲「ツクシイバラの里」もそんな中で生まれ、皆様に愛される楽曲へと育てて頂いたと思います。

今後この地を訪れる人達が安らぎの時間をこれからも満喫出来ます様に切に願います。

【おとめや／音楽の仕掛け人】



おもてなし広場で演奏する音明屋のメンバー

おっとわっとあすび その③

絵と文／松舟博満

擦っ笛

ヒユウヒユウ笛は、クリの虫食うて穴んほげとつ所つから中身ばくじつ出やて、クギで中身ばくじつじゃあて笛んなしおつた。

「ヒシの実笛」中学んなつてから鬼木んもんだんが、おん（鬼）のごてえ角ん有る黒か実ば、角

ん間ん所つば削つて、そつから中身ばくじつじゃた笛ばくれたで、鬼木ん溜池んヒシの実ば採つぎやいたことんあつた。

「貝笛」久しぶりん貝の味噌汁んぬさつて、食うた後の貝殻の一番太かとばとつとて、あくつ日ん貝のひゅう（尻）の合わせ目の出とつ所つば石ん上で擦つた

くつて、ひゅうの双方ん穴ん開けば、穴ん方ば口んくわえて吹けば音ん出おつた。

「イチヨウの実笛」外側ん実ば臭かつたで、足で踏んしゃあて、中ん種ば出やあて、砂ば付けてこすつたくつて洗るうて、生り口ん方ば石ん上で擦つて、

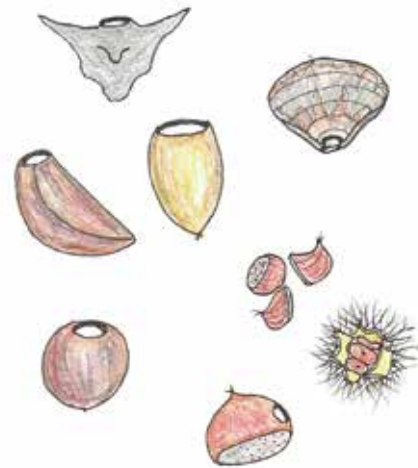
穴んあけば中身ばくじつ出やあて、口ん当てて吹けば音ん鳴つおつた。

「樫の実笛」実の種類んずびやあ（沢山）有つたで、色々あすびぎやなつおつた。笛んすつてにや笠んちいとつた所つばコガタンでうち切つてから中身ばほじくり出やあたとば、口ん当てて吹きおつた。

「カヤの実笛」下のムカイん田んなか溝んぐるりんカヤの木ん生えとつたで、その実ばひゅうて、石で擦つて穴ば開けて中身ばとつじやて、口ん当てて吹けば音んしおつた。

他にや「カタシの実笛」や「茶の実笛」も笛んした。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】



建築みてある記 ③

松浜軒をあるく

森山 学

「浜の御茶屋」とよばれた松浜軒^{しょうへんけん}は、元禄元年（一六八八）、松井家四代目直之によつて、母崇芳院のために建立された。八代城の北西にあり、本来砂浜に面していたため、堤防の松林の向こうに宇土平島、天草、雲仙を遠望できたようである。

松浜軒の建立以前、ここは黄檗宗慈福寺が廃され梶島になつていたようである。ここにあった赤女ヶ池は、松浜軒建立後にその苑池として利用されている。

松井家当主の保養所や客屋としての役割を担ってきた松浜軒だが、明

治三年（一八七〇）に松井章之、明治六年（一八七三）に盈之が移り住みのちに至るまで、松井家代々の住居となつている。一方ご存知のように、八代を代表する観光地として一般に公開されている。また平成十四年（二〇〇二）に名勝に指定された。

松浜軒の目の前にはバス停「検察庁・法務局・市博物館前」がある。バス停から徒歩〇分。

鯉の泳ぐ水路が土塀に沿って流れる。土塀は腰に簾子下見板を張り、屋根は板塀瓦または棧瓦を葺く。土塀は土蔵、番所などに接続して敷地を囲んでいる。これらのうち、交差点角にあつて最も目を引くのがなまこ壁の土蔵である（写真①）。

南側には本来の正門である南門と展示室がある。

東側には冠木門とよばれる形式の、



写真① 東からみた御蔵と番所

現在の正門があり、その隣に番所が建つ。番所の瓦には松井家の三つ笹紋にまざり細川家の九曜紋もみられる。正門より先には受付・展示室（旧御廐）があり、その近くの土塀には外を見張るための釣り格子がある。



写真② 神供所と釣り格子

格子側面には遠州の透かし彫りが施されている。さらにその先、土塀の端部には出格子のつく神供所があり、その近くの土塀にはやはり釣り格子がある。この出格子と釣り格子はどちら



写真③ 正門の向こうに大広間棟。右は旧御廐、左は番所

も親二本、子二本の親子格子である（写真②）。その先は武家屋敷に特有の笹垣が続く。それではまず、東側の正門をくぐってみよう。すると正面に入母屋屋根



写真④ 玄関。右奥は大広間棟

の大広間棟が見える。下屋がまわり出格子が正面の壁につく（写真③）。

玄関はその左にあり、唐破風とよばれるカーブを描く屋根がある。臺股には菊水の彫刻がある（写真④）。

実はこのあたりは昭和二四年（一九四九）、昭和天皇が宿泊された際に改修された部分である。玄関棟は南に曳家され、もとの玄関棟があったところに大広間棟を増築している。また正門もこのときにつくられたものである。

ところで松浜軒の建築の改修は何度か行われているようである。

茶屋に「御居間」を増築したのが寛政五年（一七九三）。肥後藩御茶道方、小堀詮順によって大きく庭園が改修されたのと同じときである。

明治になると、松井家の入居に先立ち、再度改修される。庭園側に面



写真⑤ 表書院。突出部が御書院（白菊の間）

して美しい風景をなす表書院は、現存するこの明治時代の図面に描かれている。池に向かって北向きに突出し、楼閣としての性格を帯びた「御書院（白菊の間）」、これと鉤型をなして並ぶ「御次之間（雪の間）」、「御

茶湯間（花の間）」、そして縁側がこれらを結ぶ（写真⑤）。このように鉤型にずれながら配置される段違いの形状を雁行とよぶ。表書院の南に接して「御居間」がある。



写真⑥ 新御居間。1 階は御茶室



写真⑨ 北岸からみた表書院棟。右奥に新御居間棟

を背景にのびやかでさわやかな芝生の園路となっている(写真⑦)。かつては白菊の間から、海浜を縮小再現した庭園越しに、本物の八代海の天草や雲仙を望むことができたようである。

白菊の間の西側にも沓脱石があって、出島へわたる欄干橋へと続く。この橋はオオイタビで覆われて、おもしろい。ここから八ッ橋と池につき出た茶室を眺めることができる。この茶室は、八代の古麓に寛文十一年(二六七二)に建設された麓御茶屋を移築した「林鹿庵」である(写真⑧)。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】



写真⑦ 白菊の間の前の州浜、沓脱石、中島の州浜、芝生の北岸



写真⑧ 林鹿庵

表書院・「御居間」から南側に廊下が伸びて「御茶室」、「御次之間」があり、これもまた池に向かって西向きに突出する。明治期には再度改修が行われているが、この「御茶室」に二階建ての「新御居間」が増築されている(写真⑥)。

大正十二年(一九二三)にも改修されているようだが、その後の大改修が、前述の昭和天皇御宿泊の際の

工事となる。このとき増築された前述の大広間棟は、表書院と二間ほどずれて連結され、雁行は二段となる。

ところで庭園へは、正門をくぐって右手、大広間棟と受付・展示室(旧御座)の間から、入園料を払って入る。ここから右へ進めば神供所近くに児宮社と天神社がある。児宮社の拝殿や天神社の側面にばかり床几が備えられているのは、八代城下町の

小社・堂にも見られる特徴である。この奥に苑池へと導水している遣水がある。

赤女ヶ池には中島があって、一部が州浜となっている。白菊の間付近もまた池のほとりを州浜としており、両岸が沓脱石で結ばれている。白菊の間から沓脱石へと庭に下りて回遊するのがひとつの醍醐味なのである。また中島の向こう、北岸は、林

山に行こうよ! その22

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

仰烏帽子山 球磨郡 標高 1,302m

2019年7月26日(金) 天候: 晴れ 参加者: 4名



鬼群石山(仰烏帽子山)

中に在る「鬼群石山」へ、七分の寄り道。散在する白い石は兎に見えないこともないが、「ふむ? 難しい」。しかも登山道の途中に同じような石群を先日発見した西村さんに、「ここにも命名が必要ですね」と段村さん。

難渋して登ったあの沢を、用心して二時間ただひたすら

下った。
十五時三〇分、無事第一登山口に着いた。
ところで今回目的の「キツネノカミソリ」はヒガンバナ科。ヒガンバナと異なる点は花の形で細い六片の橙色の花弁、更に葉と花を出す時期の違いだそう。花は八月半ばとあり、まだ花にはちと早すぎた。ちなみにヒガンバナの開花は九月で、「ヒガンバナ燃えて敬老の日近し」と、これは私が二十代に詠んだもので敬老の日が九月第三曜日の。
思いがけず近場で過酷な登山が楽しめました。ありがとうございました。

【徳澄正照】

今回は仰烏帽子山に「キツネノカミソリ」目当ての登山である。梅雨明けがやっと発表されたものの少し天候が不安定で、夕方には雨の心配もされる一日である。参加者は四人、集合場所を七時に車で出発。元井谷登山口(第一登山口)からの登山となった。
八時二〇分、登山開始。登り始めて間もなく登山道がほぼ水の無い川底で、沢登りとなった。ロープで示された登山道は雨に洗われて崩れ、赤いテープを目印に、沢と山肌を交互に登っていく。しばらく続いた長雨で湿気が多く、暑さで汗が噴き出した。顔に付いた汗と熱気でメガネが曇り、歩きにくい。時に道

が崩れていて、靴一足分の幅しかない崖を渡る勇気がなく、やっとの通過となったのは私。
九時三〇分、沢分かれ地点に到着、休憩。沢の脇にはマユミやケヤキの大き木が育ち、木の葉は全て新緑に衣替え、木漏れ日に揺れている。更に心地よい風が吹いてずっと汗が冷たくなった。さてここから沢を右手に折れるが、沢の幅が小さくなった。やがて沢を離れて登山道に入ると、急坂でずるずると表土が滑り落ちて、足元が定まらない。ここらは福寿草の群生地らしい。随所に福寿草の保存を求める看板が立っているが、山は表土崩壊が随所に見られて福寿草の根も崩れ落ちたのではないかと推測できた。山はまさに自然のままに再生と破壊を繰り返して諸行無常であるようだ。

十時三十分、仏石分岐に着いた。やっと見慣れた山の景色に安心だ。ここから尾根伝いに約一時間で頂上だ。新緑の眩しい明るい尾根を進むと、風がまた心地よい。山の木々は羨ましい、わくら葉も枯葉も季節で新しく綺麗に生まれ変わる。
十一時三十五分、登頂。遠くかすんで市房も自髪岳もかすかにしか見えないが、幾重にも続く山並みはいつ見ても感動だ。早速、皆さんは美味しいお弁当、私は急いで作った手抜き弁当で昼食。
十二時二〇分に下山開始。途

福井弘氏との22年間

「これまで、そしてこれから」

熊本産業遺産研究会 松本晋一

郷土鉄道愛好家の第一人者、福井弘さんが9月1日の朝、亡くなられ



2009.4.25 SL 人吉号復活の時に（一勝地駅）

た。89歳、あと2カ月余で卒寿を迎えられるところでした。この春、3月22日、人吉機関車庫での「観光列車サミット in 人吉球磨」にご一緒したのですが、その頃から、カメラの構え方も余りしつかりでもなく、撮影意欲も少ない感じで、身体がだるい、足が痛いと言っておられたことを思い出します。

それでも、翌23日の「ぐまてつ祭り」（くま川鉄道1日乗り放題）には終日ご一緒して、その往復を楽しんだのでした。往きは写真家の横井健一



86（ハチロク）の着ぐるみのお嬢さんと（湯前駅）

郎氏と同席、前日の観光列車サミット会場写真などを見せてもらいました。車内では永江友二社長らが記念切符販売に余念のない熱の入れ方でした。終点湯前駅では進歩的なヘッドマークを掲げた「御一夜鉄道」ご二行と一緒、さらには86の着ぐるみを着たお嬢さんとの記念写真などを楽しみ、

帰りはご自宅傍の旧東人吉駅（相良藩願成寺駅）でお別れました。

4月に入ってからお会いしたのは、観光列車サミットとくまてつ祭りのフォトブックを見てもらうのと、「球磨川の駅・ものがたり」改訂初版の表紙写真を見てもらうために4月13日、大工町の院長室でお会いしたのですが、その時も食欲がないので、余り食べられないとおっしゃっていました。でも、まだまだお元気で自転車に乗って帰られたのです。

4月後半には10連休もあり、私も



改訂初版「球磨川の駅・ものがたり」に見入る



昭弘さんと自宅資料の片付け

人吉市の二井正典事業で訪米高校生らがお世話になったカリフォルニアのロスガトス、サンノゼ方面を家内と共に訪問して、4月末と5月上旬までは不在したのでした。後日、その間の入院のことを息子さんの昭弘さんにお聞きすると、

「4月19日の朝9時に具合が悪くなり、救急車で外山胃腸病院、人吉医療センターに向かったが、大動脈破裂があり、急遽ドクターヘリにて熊本日赤に移送され、その日にそこで手術を受けた」

とのことでした。約1週間の入院後、人吉に帰られたのですが、腰痛で歩行困難となり、再度、連休明けの5月9日に日赤病院に入院され、癌の骨転移等が判り、放射線療法などを受けられ、6月14日には、球磨病院にリハビリのため転院。それから約2か月間のリハビリ治療が始まったのでした。

6月17日、やっと2か月振りにお会いして、その間の様子をお聞きしたり、アメリカのお土産（ブリキの機関車模型）を差し上げたのでした。次第にリハビリも進み、歩行可能なお元気になられ、7月12日には丁度息子さんとも顔を会わせ記念の写真を撮りました。またその足で、息子さんとご自宅の鉄道資料他の片付けをして、後日も数回ほど手伝ったりしました。それでも8月に

入ると、お盆前から次第に食欲もなく、ご飯も食べられないとこぼされる様子が数回の訪問の時にありました。8月9日には「球磨川の駅・ものがたり」改訂初版をしつかりと見て頂いたのです。

最後にお目にかかったのは8月29日でした。あちこちを痛がつておられ、薬のせい、うわ言も多かったのですが、何とか私のことは分かったようでした。それが最後のお別れとなりましたが、その時、次の何かの気配を感じたのは確かでした。

思えば、福井さんのお付合いは平成11（1999）年春、JR九州人吉鉄道事業部より依頼を受けた肥薩線90年誌「肥薩の汽笛」の作成準備から始まったのです。その前には映画の会などでは存じ上げてはいたの



大畑駅にて（07.7.11）

ですが、お話をすることはありませんでした。その肥薩線90周年記念時には八代の小澤年満氏の鉄道資料展示の応援もあり、3人一緒に人吉駅での展示会にも協力したのでした。

そしてより深い交流となったのは平成21（2009）年4月、熊本産業遺産研究会が肥薩線100周年記念に作成した「肥薩線の近代化遺産」の準備の時です。平成20年春夏秋と、それぞれ主な駅の駅舎やホー



大畑駅改札口（08.7.27）

ム周辺を探索し、鉄道遺産の有無を確認したのです。八代駅から真幸駅までを少しずつ渉猟しました。中でも川線の坂本、白石、一勝地、人吉機関車庫や跨線橋、古レールの計測調査、そして山線の大畑駅と矢岳駅の給水塔跡には特に念を入れたのを憶えています。それらは氏の187

頁「肥薩線を走った蒸気機関車たち」他の著作と共にしつかりとその本に記されました。

そして、今回の「球磨川の駅・も



「球磨川の駅・ものがたり」の連載

お付き合いを頂きました。（氏の感想はこの本の205頁に記してあります）
連載「球磨川の駅・ものがたり」の本づくりの初版は50部のみを作成、それを3月の観光列車サミットの時に鉄道関係者等に記念にお配りしました。特に水戸岡鋭二先生には、8月頭に出版した改定初版用に推薦の一言葉と、本作りのアドバイスも頂き、立派な本にすることが出来ました。8月9日、この改訂初版を福井さんにお届けした時も、その出来栄に大変喜ん

で頂いたのです。特に改訂初版用の表紙写真には拘り、この3月には福井さんと球磨川第2橋梁下、そして球磨村馬場下からの列車撮影に何回も足を運んだことを思い出します。

本当に過ぎてしまえば、長い様で短いお付き合いです。最後の本の時にも、大工町の院長室で、あるいは相良の十島文庫で、折に触れて「くまがわ春秋」誌の原稿に目を通して頂きながら、雑談、世間談義に浸ったのです。福井さんが愛車カブ号で十島に来られる時間が、お互いに楽しみでした。その福井さんの生き方、その生き様は、最後まで自分のペースを守り、デジタルカメラになっても無駄な写真を撮らず、チャンスを大事にして、写真データや記録をしつかりと取り、人に迷惑をかけな

<福井弘氏の鉄道写真ピックアップ>



18.2.23 大畑駅スイッチバック



18.3.28 鬼木踏切



18.4.13 一勝地芋川鉄橋



お通夜にて (9月2日玉泉院)

い、その素直な生き方と言葉遣いがありました。ですが、そしてもっと聞きたかったことは、なぜ、昭和の30年から一人で、時にはご家族と、自転車で列車の撮影に行かれたのか、鉄道のどこに一番魅かれたのかを、もっと聞いておくべきでした。それでも、9月2日夜の家族葬に



福井弘さんの思い出(16.8.24院長室)

は、福井さんを慕う多くの方々が参加され、福井さん談義に花が咲いたのです。福井さんとの思い出は「福井弘氏と共に肥薩線の本づくり」のフォトアルバムにして、個人的な20数年のお付き合いの記録、お仕事のこと、お家のことを含め、映像として46頁にまとめてみました。

しよう。「弘雲映鉄信士」福井弘氏の後に続く若者たちに期待するところだ。福井さん所蔵の映像や多くの資料は、先ずは人吉鉄道観光案内会館のSL館の一室、父君の福井甚作様他の海軍資料は錦町の人吉海軍航空基地資料館へ保管される予定です。これらがしっかりと「福井コレクション」として保存展示・活用されることを期待しています。そしてそのことを、福井さんはじつと草葉の陰から覗き見ておられることでしょう。

また夢の中で、福井さんにお目にかかれることかと思えます。その時は久しぶりにゆつくりと歓談致します。本当に多年に渡る数々のご厚誼、有難うございました。どうぞ、安らかにやすみ下さい。

(令和元年、青井さん九日祭の日)



上杉芳野の「あがつ段」④

身も心も健康で生きよう

先月、胃の調子が悪くて病院へ行った。そのとき問診票に「食欲はありますか」と記入した。その後、先生がすぐ怒った口調でこう言われた。

「貴女はね、何年か前には63キロの時もあったんですよ。なのに、どうしてもどんどん肥っていくんですか！」

今の女性の平均寿命は87・5歳ですよ。貴女はこのままいくと、そこまで生きられませんか！ 自分の体の事を考えて努力しない！

努力もしない人が長生き出来るわけがないでしょう

う！胃の調子が悪い時に食欲があるなんて考えられません。ごはんも小さい御茶碗で一杯でいいんです。

口の中に入れていたのをよく噛んで、食べてしまってから次の口に入れなさい。まだ口の中に入っているのに、次々食べない！早喰いしないで、ゆっくり時間をかけて食べなさい」と言われた。

私の体の事を案じての先生の注意指導に改めて先生に感謝した。

誰がこうも一生懸命怒ってくれるのですか。

メガネの奥の可愛い目がきつい目になったのを思

い出す。先生の注意の後私は「わかりました。これから努力します」と先生に言った。

それからである。朝は40分歩き、夕方は愛犬のチャミ子と義母と一緒にほんの10分程であるが散歩をしている。

お母さんは88歳で認知症である。今の事も2、3分で忘れてしまい覚えていない。今の私が幸せなのはわかる様で嬉しいと言葉と態度で表現してくれる。

30年ほど前はとても元気で、言われること、されることがイヤでイヤでたまらず大嫌いだった。

「どうしてこんな家に嫁に来たんだろう」とさえ思った。

今は違う。認知症になった母は言う事もする事も前の母とは違って、とても可愛く思う。時々は何

をいつもわからない事をされる時「病気だから…」と自分に言い聞かせるが、はがゆくてたまらない時もある。でも、そんな時もぐに忘れて又、可愛い笑顔になる。

時々とは仏様、神様に思えることもある。母のお陰でいろんな事を学ばせてもらっている。

前は「90歳まで生きらばん」と言っていた母だが、先月お姉さんが百歳のお

祝いをされた時に「おいも百歳まで生きらばん」と言いながら「我が家が一番良か」と喜んでくれる。

「お母さんは百まで生きやっどばってん、私と謙ちゃんの方がわからんかも



愛犬チャミ子と散歩（令和元年8月）
姑の母（88歳）とお手々つないで

「うえすぎ・よしの／ボランティア
観光バスガール、あさぎり町上」

知れん」と言うのと、「せいならおいもわからんたい。めし喰わせるもんがおらんば」と言われた。

老いは誰もが通る道。今この瞬間喜んでくれることを一つでも多く作ってほしい。身も心も健康でないと、生きてる甲斐がない。

今やつと親子になれた喜びを、この家に嫁に来て良かったと、今いえる喜びは、母のお陰です。

母にありがとう、感謝です。

「戦地（種子島）の便り」に見る家族の絆④

尾方保之

期日ははっきりしないが、母（しまえ）が父に送った手紙が一通だけある。

母より父への手紙

たびく御手紙、ありがたく拝見致しました。今日、西の畑からかえって見たところ、手紙が来ていました。本当に貴方様は幸福な身です。しっかりお国のために働いて下さい。

私は家にいて子供をそだてておりますからどうぞ、しっかりやってください。

西の畑の桑の葉は、お寺にやりました。一枝六円でやり、残りの畑のは榎田（母の実家）にやりました。

学校から二十三日に給料三十二円四十五銭もって来

て下さいました。学校の校長先生には、手紙をやって下さい。

保之のかさ（できもの）はよくなって、こんどは、はしかのようなものがからだいっぱいでいます。二、三日はひじょうに熱がでしたが、まあ十日もしたらよくなる事でしょう。犬童さん（犬童病院）に見てもらい薬をやっております。

達さん（ニューギニア戦線）にも金十円送っておきました。二人とも皇国のためにふんとうを願います。

こちら、いまは桑虫（かいこ）で皆いそがしいときですから、私たちも一生懸命に働いております。たがいに働きましょう。

なるだけからだを大切にして下さい。五人の子供は、毎日く私と一寸もはなれずついて歩き、ぴんくし

ています。

さようなら

しまえ

保様

父の手紙 十月二十二日



昭和20年3月5日、種子島にて。中央が父・保

一、十月二十一日
今日も元気で御
奉公している。
一、十月分の俸給
から百拾九円づ
つは、毎月軍司
令部（福岡）よ
り送金されるに
付、承知され度
し。
一、俸給が増加
されることにな

つた。今まで月百五十三円であつたが、それに
九十円増加して二百四十三円にはなつたので、私
から毎月百円余り送るから。

一、種子島は長さ十五里（約60km）幅三里（約12km）
です。私共の居る所は南方で南種子島村という。

…（略）

一、此の島は道が悪く部落が点々として、男も女も
よく馬に乗って歩く。女が子供を一人背中に負い、
一人は抱いて馬に乗っている有様をよく見る。
物をよく頭の上にのせる。ひどいのは、馬の肥（こえ）
ザルに入れて、頭にのせてはこぶ。

一、島の言葉が球磨の言葉に似ているのが多い。「何
シモウス」「何デゴザンス」など、鹿児島言葉と
異なり島独特な言葉です。

次に日本の厳しい戦況に対しての心得を書いている。

いよく米英との決戦期が近まる。

第一戦は決して心配いらぬから安心して生活なさい。

どんな事があるうとも、びくともせず、おちついて
いることです。

神の国、日本は必ず勝ちます。正義の前に敵はあり
ません。

子供もどっしりしたおちついた心を作ってやって下
さい。

忠臣は孝子の門より出るのです。

親孝行する子供でないと陛下に忠をなす軍人になれ
ません。親孝行することが、日本の子供の道である
ことをよく教へて下さい。

皇国危急の秋、心と身を十分ひきしめて銃後の闘い
に勝って下さい。

父より

父の手紙 十一月十四日着

―バナナ送る―

一、先日荷物を見合わせるように申したが、すぐ送っ
てください。拾^{あわせ}と羽織を。

一、実は軍司令部に出張の筈が変更になりました。ま
た、そのうちに出張があまりしよう。

一、バナナを二箱送ります。少し青いのを送りました。
届く頃はよいかげんに熟すると思いますが、もし
青くしていたら、きものに厚く包んで三、四日温
かい所におくとうれます。少しでもよいから榎田
(母の実家)、忠宅(父の弟)、岡原(父の妹)へ
もやって下さい。

此の次は白魚^{しらいお}(だし子)を送るつもりです。

国保兄(六年生)のお礼の手紙

十一月二十四日着

父さんお元気ですか。家の者は皆元気です。
父さんがおかしを送って下さいまして、ありがとう
ございました。朝早くおきて、みんなすこしづつたべ
て四、五日ばかりありました。

また、父さんの手紙の中に、バナナを二箱送ったと
来たので、家の者は皆喜んで待つて居ます。

もうみょうけんのからいもも、桑畑のからいもも、

長畑のからいもも全部掘ってしまいました。みよ
うけんの下の北東にあたる田のからいもは、全部
きょう出しました。家のきょう出(供出)は二百
貫(七五〇kg)でした。しっかりと働いて下さい。
さようなら

国保より

バナナはつきました。ばんざい。ばんざい。

私もバナナのことだけはよく覚えている。青く
て細い小さなバナナだったが、数日間もみがらの
中に入れておくと黄色に熟しやわらかくなった。
その味が、なんともいえない素晴らしい味だった。

(つづく)

【おがた・やすゆき／球磨郡錦町】

家計簿に見る昭和19年8月～12月の主な支出記録

月 日	項 目	金 額
8 月 11 日	ハガキ 50 枚 (1 枚 3 銭)	1 円 50 銭
8 月 19 日	新聞代 8 月分	65 銭
8 月 19 日	配給麦 (1 斗 3 升) 麦粉 (1 斗)	10 円 75 銭
8 月 20 日	配給米 (1 斗 7 升)	10 円 45 銭
8 月 23 日	親戚祖母供養	1 円 50 銭
8 月 24 日	配給紺足袋 (1 足)	1 円 13 銭
9 月 23 日	馬場さん入隊銭別	1 円
9 月 26 日	配給せっけん・ちり紙・昆布	87 銭
9 月 29 日	焼酎配給 (2 合)	1 円
9 月 8 日	青山さん入隊銭別	2 円
9 月 16 日	配給マッチ・浅草のり・にぼし・つくだに	3 円 65 銭
10 月 17 日	電気料 9 月・10 月分	7 円 64 銭
10 月 25 日	配給足袋色物・白物	2 円 31 銭
10 月 30 日	配給マッチ	25 銭
10 月 30 日	田中武さん戦死公報 お悔み	1 円
11 月 2 日	酒特配	1 円 85 銭
11 月 3 日	菓子配給	12 銭
11 月 8 日	「家の光」2 冊	40 銭
11 月 16 日	配給ネル 1 円 30 銭 さらし 77 銭	2 円 7 銭
12 月 5 日	米の配給	14 円 53 銭
12 月 29 日	数の子	40 銭
12 月 30 日	焼酎 (5 合)	2 円 70 銭

秋空のもと、笑いはじけよう

上田精一『平和歌集 生きる!』（青風舎）を読む

上村雄一

ふるさと

著者・上田精一は1937（昭和12）年5月1日に八代市で生まれた。現在82歳。育った場所は製紙工場の中心地の大田郷地。煙突が並び、製紙工場から吐き出される独特の異臭のする場所である。お世辞にも「緑なりき」とはいえないが、彼は「ふるさととは緑なりき」を本書の冒頭に置いた。それにはいくつかの理由があるだろう。

第二に、人生の大半を人吉球磨ですごした事情だろう。大学卒業後、上田は教職の道にすすむが、赴任地は母の故郷（相良村四浦）・人吉球磨にした。大田郷を避けたわけではなく、新卒教員は出身地を赴任先にしないことになっていた当時の慣例にしたがったためだが、結局、彼が八代に戻ることはなかった。最初の勤務校は人吉・中で、そのときの一年には田中信孝元人吉市長、作家の前山光則、三年には歯科医の松本晋一などが在籍していた。同校を皮切りに、五木二中、上村中、多良木中、錦中、相良北中、人吉二中の七校で教鞭をとった。1998（平成10）年に定年退職。教頭・校長になることなく、「生涯現役一教師」を貫いた。教師時代の上田については、前著『いつも子どもを真ん中に』（青風社2017年）に詳しい（本誌15号74頁以下参照）、同書と本書をながめつつ彼の人生を思う。

定年後も、上田は人吉球磨を拠点に生きた。熊本大学などで非常勤講師として教壇に立ったほか、映画上映活動、平和運動などに力を尽くした。ふりかえれば、60年近くの年月を同地ですごしている。大田郷も彼の「ふるさと」だろう。

実弟の死を悼む歌、同窓会での出来事の歌にそれを感じる。しかし、彼にとつては、いつのまにか、それ以上に、脊梁山地に囲まれた人吉球磨が「心のふるさと」になり、そこが、物事を考えるときの「第二の自然」になっていた。

しかしながら「緑なりき」は、これまで共に生きてきた、そして、これからも共に生きていくであろう妻・廬子との結婚生活をはじめた場所という、特別の意味が含まれている。五木村立第二中学校の職員住宅で二人の歩みは始まったのであった。それ故、「緑なりき」から本書を始めることは彼にはどうしても必要だった。そのことにも表れているように、本書は、妻・廬子への一種のオマージュの本である。義母（妻の母）への敬意の歌にもそれは投影されている。しかしながら、夫婦間の情愛、家族愛だけに注目すれば、「平和歌集」と名づけた上田の真意を十分に把握できない。それだけでなく、「反戦平和の歌集」であることを意識しつつ、それに絡めとられずに読み進みていくならば、いつのまにか、われわれは彼の広大な知の世界の片隅を知っているにいたり、彼の思想・哲学の構造の輪郭に接することになる。政治的事件の二行日誌的短文の歌集のようにみえるが、本書の内容は深い。

青き水の球体

「ふるさととは緑なりき」というとき、なによりも、「大地」を指すであろう。人間生活の土台、人間に恵みをもたらし、

今後ともそうである大地に上田は重要な意味を与えている。大地なしに人間は生きていけない。生きる糧はすべて大地から生まれる。「緑なりき」はそのような存在である。

「緑なりき大地」は、外部世界からながめれば、「青き水の球体」であろう。大地だけでなく「清き水」の地でわれわれは生きているのだ。「清き水」は、脊梁山地に降り注ぐ雨、川辺川の水、有機水銀に侵される前の水俣の海、原発事故で汚染される前のフクシマの海、原爆被害者が求めつつ死んでいったときの水、破壊されようとしている



辺野古の海である。「青き水」は、辺野古の海を越え世界の海につながっている。どうみても、それは、けっして個人・国家の所有物ではない。青き球体に住むすべてのものが必要にする共有物である、それにもかかわらず、人為的に線を引き、特定の者による「支配可能」で、「取引できる」存在つまり商品とみなす連中がいる。たとえば原発を稼働させ、それを輸出しようとする者はその一例である。ジュゴンの海を埋め立てそこに軍事基地をつくらうとする者はもうひとつの例である。今が良ければいいというのか。「我が亡き後に洪水よ起これ」というのか。上田はそうした連中の逃げ道を塞いで言う。

原発の危険無視せる東電の社長平然と「想定外」と

原発に関心を持たず生きし来しを恥じ入りたりしと参加者ばつりと

「想定外」は死語であり、弁明の言葉として機能しない。「関心」をいただくことがなかった者が「恥じ入る」とき、その「恥じ入る」に「悲劇」性を認める。だが、「恥じる」のは一度でいい。同じことを二度「恥じ」ても、それは「喜劇」にしかみえない。

「緑」と「青」の球体は桃源郷ではない。東日本大震災・津波被害・熊本地震、千葉の豪雨のようにときに過酷な試練をもたらし、それを防止したいと願う者がでてきても不思議ではない。人知の限りをつくし減災に努めることには意味がある。しかし、人知には限界がある。その限界を知りつつ限界内で人は生きるしかない。原発屋だけでなく裁判所もどうしたのか。東電幹部の刑事責任を認めず全員無罪とし（2019年9月19日東京地裁判決）、放射能を取って欲しいとの農民の訴えを退けた（2019年10月14日福島地裁郡山支部判決）。最近の判決ゆえ二判決について本書は触れてない。大飯原発再稼働差止事件判決（2014年5月21日福井地裁判決）を高く評価した。しかしこの両判決には厳しく接するであろう。

先祖から受け継いできた土地

大地Ⅱ土地は最初から豊穡ではなかった。荒野・荒地を世代の交代を重ねながら人々は少しずつ耕してきた。川辺川ダ

ム建設のため水没地に予定されたにもかかわらず、五木村住民の尾方茂はその地を最後まで去らなかつた。尾方は上田にこう語ったという。

「百姓は農地のなからんば生きていけんですもん。先祖代々受け継いできた農地は、どしこ金ば積んでもろつても手放されまっせん」

汚染土訴訟原告の一人・鈴木博も次のように話す。

「ちゃんとした土地、先祖からもらつて、俺の代では汚したけど、これを元に戻して次の世代の人に渡す、それが最大の我々の仕事だと思っている。」

「先祖からもらった土地」は重たい。決して古くさい言葉ではない。いまでも大半の人の規範的精神のもとになっている。農地は自動的に生み出されたのではなく、そこには先祖の労働の汗がしみ込んでいる。先祖の努力の結果として現在の農地がある。それゆえ農地を農民は簡単に手放さない。すぐに売り買いできる「商品」とは考えない。さかのぼっていけば、先祖の個別努力ではなく、共同体の共同行為として土地はつくられてきた。収穫後のムラ祭にその痕跡を容易に見出すことができる。「共同の労働」は「平等の原理」を基礎にし、ムラで生きるは「ムラの二員として、他のムラ人と共に生きる」にほかならなかつた。キューバーを訪問したとき、

ビルの壁ぐずれ剥げ落つ国なれど道行く人の笑いはじける

との歌を上田はつくつた。するどい観察で、豊かな生活とはなにかを明らかにしている。資本主義の浸透（「近代化の深化」）にともない貨幣と権力（圧制）が庶民の世界を攪乱し、精神的余裕のない世知辛い世の中にしてしまった。渡辺京二に代表されるように黒船以前のひとびとの生活を評価する動きは強まっているが、それには理由がある。エンブリー研究の第一人者の田中一彦もそのひとりである。それは「社会主義国家」への志向を必ずしも意味しない。人間と人間の関係が貨幣を媒介した関係になっているかどうか、貨幣の所持量が人間評価の基準になっているか、そこに問題はあつた。上田が、

今の世に「蟹工船」の読まるるを作者多喜二はいかに思うや

というとき、そこには渡辺京一や田中一彦と同一の精神が流れている。多喜二虐殺から90年以上経つにもかかわらず、あくなき貨幣欲、その欲望を満たすために人間を「物」としかみない連中の跋扈^{ばつこ}、「過労死」を世界語にしよう状況がつくり出されている。「共に働く」・「共に生きる」の意味理解の欠如、労働の断片化^{ばくぺんか}が広がり、「人々が笑いはじける」姿は見なくなった。「共に生きる」は「妻廸子と共に生きる」の意味に限定されるわけではなく射程は夫婦間を超えて社会編成の在り方に及ぶ。「夫婦が共に生きる」背後で多数の人々が「共に生きている」。妻が笑い、その周囲の人々も笑う。細かく語っていないが、彼はそういう社会を希求している。

「共に生きる」は「共に生きる人」の交代をとまなう。共に生きる人は新しく登場し、あるいは去っていく。今年、上田夫婦にはじめての「ひ孫」が生まれた。しかし、その前に、弟、義母のほか、桑原寛、北御門二郎、佐土原盛、伊勢戸明、濱崎均、有本数男、大山次郎などの死があった。上田は、そういう人たちを悼む歌もつくらざるをえなかった。「有生必有死」と上田はいい「節理」とするが、彼の歌をながめるとき年を重ねることは悲しみに耐えることだと知る。たとえば伊勢戸明をこのように悼む。

看護師が持ちてきたりし綿棒の焼酎ふくみ君は逝きたり
君逝きて日ごと広がる空洞を埋める術もなく今日も暮れゆく
限りなく酌みかわしぬ汝がいのち締めし者の一人か我は

永遠平和のために

歌中に次の二首がある。

「戦争か平和かの歧路」なぜ言うはおかしき言ぞ九条あるに

憲法九条は絶対的存在で改定の余地なきものと読める。政治状況を考えない政治音痴の言にみる者がいるかもしれない。

自衛戦争も否定するのかもしれない者もいるだろう。時代は変わりゆく。一言の改定も認めないのは硬直的すぎると語る者もいよう。しかし、そうではない。「言葉持つ人類なれば対話なり」と彼が言うとき、彼が人類の理性にかぎらない信頼を寄せていることを知る。北御門二郎を敬愛し『イワンの馬鹿』を座右の書にしていることからすれば、彼の平和思想は北御門二郎の非戦論に近いのだが、北御門が自己の思想の基礎を確認するため学生時代に読んだカントの平和論にもかぎりなく近い。「純粋理性批判」、『実践理性批判』、『判断力批判』の三部作を完成させたのちカントは、『永遠平和のために』を書いた。同書を読むとき、日本国憲法前文及び第九条にカントの精神が流れていることを容易に確認できる。憲法前文を理想的にすぎると揶揄^{やゆ}し、憲法九条で日本を守るかと挑発する愚論を耳にするときがある。が、そのように言う者たちはカントを知らないのだ。戦争がいかに理性に反するかを知らないのだ。しかし上田はちがう。彼にはカントの精神が流れている。彼を笑う者はカントを笑う者である。彼の歌集はそのような作品として読むべきだろう。カントは机上で考える人ではなかった。現実世界の状況を頭にうかべて彼は論文を書いた。上田も同一である。彼の前にはいつも現実がある。カントは彼の流儀で平和を説いた。上田も彼の手法で平和を説く。世界の人々と「共に生き」、笑いはじけるためには同じ青き球体に住む世界の人々と対等平等につきあい、言葉（理性）の力を信じる以外にはない。

それでも人間理性に反する行為がなくならないことも確かである。なぜ、戦争が起きるのか。その原因をさぐることは多くの人々の課題であった。物理学者のアインシュタインもそうで、戦争発生の原因を心理学者のフロイトに質問したのは一例である。二人は、理性でなく、人間の「心理」から戦争に迫ろうとした。アインシュタインとフロイトの往復書簡については本誌12号68頁以下で簡単に紹介した。残酷な行為を残酷と感じない感覚になっているとき、戦争は継続するとフロイトは語っている。理性と人間心理の関係を理論的に整理するのはむずかしい。上田は、理性をかぎりなく擁護しつつ、人が理性を失ったときに、どのようなことが発生したかを具体的に示す。

戦争の実相

本書は、「白旗の少女」と「焼き場にたつ少年」、そして東京での「5・3集会」の三枚の写真を表紙に載せている。それだけで本書の主旨は理解できる。「白旗の少女」は沖繩戦終結日（6月23日）に、一人の少女が洞窟（ガマ）から白旗をあげて、アメリカ軍の銃口の前に姿を現したときを写したものだ。白旗は両手両足を失った祖父、盲目の祖母が揮てつくれたものだった。「焼き場の少年」は原爆によって死んだ弟を背負い、火葬を待つ少年の姿をとらえた写真（近年、この写真はネガを反転させているのではないかとの批判的が流布しているが、仮にそうだとしても、この本質は変わらない）。本文中に、死んだ子の焼き場を求めて広島市内をさまよう母親を描いた中沢啓二の絵があり、中沢の絵に誤りがないことを示す。「5・3集会」は憲法擁護の動きを伝えるために掲載したのだろう。

裏表紙には小林多喜二と多喜二の母の写真を載せている。戦争を遂行する者は戦争反対者を許さない。徹底的に弾圧する。そこでは理性は機能していない。高木惣吉少将は東条英機を危険人物とみたが、彼は稀な例であった。多喜二虐殺は残虐行為を嫌悪する心性が戦前日本に失われていたことを示す典型例である。多喜二は、戦前日本で命をかけて反戦平和を説き人間を「物」としかみない連中を告発した作家である。多喜二にまつわる歌を多数載せることで反戦平和の運動を鼓舞するとともに、戦争遂行者の心性を上田は示そうとした。多喜二の略歴を知る者には、多喜二論ではないかと思わせるほどに彼にまつわる多数の歌が収録されている点に、本書の最大の魅力を見出すかもしれない。

戦後70年以上たち「白旗の少女」、「焼き場の少年」は過去のものとなったか。沖繩はいまでも基地の島のままではないか。広島・長崎投下時よりはるかに強力な核兵器が増産されているではないか。戦後の出発点である憲法九条を否定する動きもみられる。それに対抗する世論ももちろんある。上田は後者の担い手である旨を隠さず、同法を否定する兆候があればそれを歌にし、警鐘を鳴らしつつける。

新天地へ

上田と廬子が人吉球磨を離れることはないと思う。しかし二人は、次女の嫁ぎ先（長崎県南島原市）のもとに移った。廬子が難病（「大脳基底核変性症」）におかされたのであった。医学の知識がなく、その難病がなにを意味するのか知らないが。廬子の場合、左脚・左手がしだいに萎えていく症状としてあらわれた。廬子は転倒をくりかえすようになり、杖を放せなくなった。看病・介護が絶対に必要な状況になった。看病・介護しようにも傘寿をすぎた上田にはそれは無理であった。症状が進行するなかでの廬子の歌はときに痛々しい。

夫と建てし新婚の家半世紀子ら住まずして空き家となるか

ふと思いつく消えゆく命なり残り時間はいくばくなりや

欠席の欄に小さくマルをつけ同窓会の返事を出しぬ

こういうとき、そばにいる者はどういう姿勢でいるべきか。上田がとった行動と廬子の反応は本書に詳しく語られている。看病・介護しつつ生きる、看病・介護されつつ生きる、その道しか二人にない様子を確認しつつ、読み手は上田と廬子の歌を読みすすめていくことになる。途中で、自己が老いたときどうしているか、卒寿をすぎてもゲバラや多喜二を考えるだろうか、そもそも卒寿まで生きるだろうか、反戦平和をいつまで考えるだろうか、といった堂々巡りの思考が頭をよぎる。前山光則『ていねいに生きて行くんだ』（本誌43号24頁以下参照）の文字がくりかえし登場した。つきつめていけば、上田、廬子、前山の三人は同じ生き文脈（コンテクスト）のもとに生きている。

それにしても上田精一はただのものではない、表紙裏に、お猪口を片手に、満面の笑みを浮かべる自身の近影を載せているのだ。その一枚の写真で、新天地での上田夫妻の生活を我々はうかがい知ることができる。秋空のもとで、二人が笑いはじけている様子がみえてくる。僕らも、二人と共に、笑いはじけながら生きよう。

★本書は2019年9月27日に出版された。文中、敬称はすべて省いた。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

故渋谷敦先生、 熊本県近代文化功労者に選ばれる

10月24日、熊本県教員委員会は
故渋谷敦先生（平成23年没、享年87）、
高月清先生（89歳）、松本寿三郎先



故・渋谷敦先生

生（87歳）の三名を功労者に決定。
11月2日13時より、熊本県庁本館
地下大会議室で顕彰式をおこなっ
た。渋谷先生について奥さまの郁子
さんが代理で表彰書状・記念品を
受領した。渋谷先生の受賞理由は
次のとおり。

昭和27年から球磨郡内の高校に
勤務する傍ら、「幸野溝^{こうのみぞ}」を出版し
高い評価を得るなど、球磨郡の歴史
解明に大きく貢献した。

また、埋もれた郷土の先覚の発掘
とその業績の調査に精力的にとりく

んだ。

マンモス化石の発見や石炭学の
権威で三校・七校・五校教授等を
務めた人吉市出身の岩崎重三の伝記
『岩崎重三伝』や、戦時中に東條
首相の政策を批判した、いわゆる「竹
槍事件」の関係者である毎日新聞編



代理で表彰書状を受け取る渋谷郁子さん

集局長吉岡文六（人吉市出身）の
伝記「無冠の帝王」を発表した。

日本最初のパイロット日野熊蔵（人
吉市出身）の伝記「日野熊蔵伝」な
どの飛行機三部作は、飛行機、気球
の黎明期に大きな業績を残しながら
半ば埋もれていた事実を丹念に調査



顕彰される高月清さん、松本寿三郎さんと共に

し、各種資料や関係者の証言など緻
密な考証のもとによる著作である。
球磨郡の戦国時代の武将岡本河内守
の伝記「岡本河内守小伝」、「剣術タ
イ捨流の創始者丸目藏人佐」も埋も
れていた資料を丹念に掘り起こし、
人物像とともに戦国期の球磨郡の歴
史研究に益すること大である。

日本人としてアメリカでの開業歯
科医第一号で明治・大正・昭和の三
天皇の侍医を務め一井正典（人吉市
出身）の伝記「星雲遙かなり」は。
足跡をたどるためアメリカで資料探
求し、第18回熊日出版文化賞を受
賞した。終戦工作に奮闘した海軍
少将高木惣吉（人吉市出身）の伝記
「積乱雲」もある。

一連の著作には一貫して著名な人
物というより、埋もれた先覚者を発

掘し正当に評価していこうという態
度が貫かれている。

その他教員委員会は、熊本県文化
財保護委員として23年間尽力したほ
か、錦町教員委員長、同文化協会会
長を歴史したことなどを選任理由に
並べている。「選任理由」として明示
されていないが、幕府、薩摩、豪商
石本の動きを関係づけながら「なば
山騒動」の真相にせまりつつ、自死
に追い込まれた若者を主人公にした
遺作「なば山騒動異聞」、ツクシイバ
ラの発見者の前原勘次郎の略年譜
錦町町史もかかせない業績である。
逝去から10年近くになる。本誌も、
こんど、先生の業績を改めて確認し
ていかなければならないであろう。

（春秋）

「渋谷先生、最高です」

前田一洋

「遅きに失した、せめてご生前に！」
と思いながらも、近來これほど嬉しかったことはありません。渋谷敦先生が、今年度の「県近代文化功労者」にお決まりになったことです。

昭和二十三（一九四八）年度から始まったこの顕彰は今年度で六十九回目を迎えました。わが球磨・人吉地方からは、昭和の時代だけでも犬童球溪先生（以下敬称略）、前原勘次郎、渋谷礼、川上哲治、川辺ミチ、高田素次の錚々たる、しかも身近かな方々が対象に。

渋谷先生はどなたもご存じのように、この地出身の偉人たちの業績を掘り起こし、そして正確な記録として出版してこられました。

そのご著書を挙げてみますと『空のモッコス』『飛行機六十年』『剣豪丸目蔵人』『青雲遙かなり―齒科医・一井正典』『積乱雲く海軍少将高木惣吉』『日野熊威伝く日本初のパイロット』『なば山騷動異聞』など、それこそ次から次へと。しかもその内容からして実に多くの手間暇のかかるものばかり。

しかしお陰でこの球磨・人吉地方が、これほどまでに文化の色彩に恵まれたところであるかを知ることができました。さらには、そうした偉人達の業績に学ぼうとする人達の、大きな指針となり参考になつてゐるのです。

故郷を愛しそして正しい姿で残そうと、考古学や民俗学の面でも多大な貢献をしてこられました。人吉高校・球磨工業高校・球磨商業高校ご在勤中でも、「郷土研究部」の生徒たちを励まし、多くの発掘や調査を。私がここに保存している報告書だけでも相当な数。

例えば、「木上平野・安前遺跡」「下り山須恵窯跡」「城本焼窯跡」「トビラ山祭祀遺跡」「カギ屋（球磨地方に特徴的な建物）の調査」「田上焼の窯跡」「水上村の文化財」「上村焼窯跡」

「三石・小原横穴群」「尼が土手（須恵尼の居館跡）」「勝福寺跡」などと、まさに枚挙にいとまがないくらいです。

こうした生徒たちを交えた発掘や調査活動から、多くの人材が育ってきました。それは単に先生が優れた学識の持ち主というばかりではありません、あくまで「若者大好き」という、大きな姿勢があったからだと思います。従つて先生の「イキ」がかかった人たちは人文科学から自然科学そして社会科学と、あらゆる分野で、大きな活躍をしています。

そのような先生にも、堪え難い悲しみの時がありました。それはご長男の浩一君が、京都大学の大学院を卒業してすぐのこと。憧れの日本鋳業に入社して、カナダに派遣される寸前、鋳内事故で他界したのでした、二十九歳と

いう若さで。そしてその亡くなり方も、浩一君らしい「男氣」に満ちたものでした。

たまさかその鋳内に来た時、巨大な送風機がストップ。そこは北海道定山溪の地下、まさに焦熱地獄さながらのところ。誰もが尻込みする中で、「よし俺が点検してくる」と、送風管を通す洞窟内へ。間もなく音信が途絶え、おそらく酷い地熱のための脱水症状で。

そうした悲しい思いを涙と引替えに歴史上の人物に重ね合わせてお書きになりました。それが絶筆となった、『なば山騷動異聞』。騷動の責任を取つて切腹した田代善右衛門、その嫡子で前途有望な田代政績こそ、浩一君そのものように思われて仕方ありません。

ただ有り難いことには、奥様の郁子先生がますますお元気で、先生への香華が絶えることはありません。そしてご長女のあい子さんは熊本からしばしば帰省し母上を元気づけ。

さらにご主人の木崎康弘さんは、熊本県装飾古墳館長まで勤められ、遺稿や資料の整理をして、先生のご意志をしっかりと継いでおられます。きつと黄泉の国で先生、お母様そして浩一君を交えながら、大好きだったこの地のことを語つていらつしやる事でしょう。

十一月二日が顕彰式でした。私達もご家族と一緒に、心から先生への祝意をお伝えしようではありませんか。「先生、最高です」と。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

渋谷敦先生受賞によせて

益田啓三

十月七日は渋谷敦先生の祥月命日である。この日、錦町一武の自宅を訪ねた。家はしんとして奥さまは留守のようであった。ならばお墓に参つて行くかと墓地へ向かった。

着くと「あら!」「まあ」と、奥さまと出会う。今になってみれば敦先生の引き合わせかもしれない。

敦先生は多くの教え子たちに絶大の人気がある。それは誰に対してもやさしく腰が低いからではないだろうか。私は球磨工高の出身である。高校選びに失敗したと後悔した口である(工業には申し訳ないが)。ただそこで先生

に出会えたことだけがラッキーであった。おかげで今も郷土史を楽しませてもらっているのは先生のおかげである。

今回の受賞はまことにめでたいことである。本当はもっと早く、先生が元気で活躍されていた頃ならばもっと良かったのと思う。先生といっしょに大宴会して大いに飲みたかったと残念がる諸氏も多いに違いない。

平成18(2006)年、念願叶って日本初飛行の「日野熊蔵」氏がやはり県近代文化功労者に決まったが、この時も何度も推薦願を出してやっと選ばれたのがなんと没後60年目であった。

それでも日野家のお孫さん、そして先生と一緒に県庁で行われた顕彰式にお供したことを思い出す。先生はこの受賞を我がことのように喜んでおられた。今ご自分の受賞をどう思っておられるだろうか。

「ありがたかバツテン、似合わんどー」「そいよか次ば探さない!」

とこんなふうに照れながら言われるような気がする。

さて次は…と。おられた、田野いのしし村に球磨弁の人が…。渋谷敦先生一番の教え子である。この人には娑婆だち前にぜひ受賞願いたいものである。

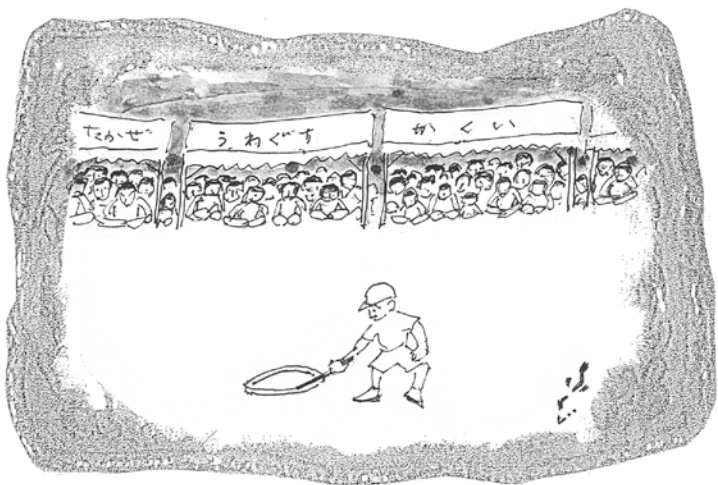
私は今回の功労者受賞を契機に「郷土の偉人」がまた一人誕生したとひそかに思っている。今はまだ私一人かもしれないが……。

【ますだ・けいぞう／人吉市】

「あしたは地獄の運動会」

その ④3

絵と文／坂本福治



小学四年の孫が、楽しみに言った。その瞬間、私の小学四年の時が思い出され、笑えなかった。

昭和二十一年の秋、朝鮮半島の三十八度線を歩いていたのである。父の里に着くと、稲刈りの最中だった。そして、転入した小学校はいきなり運動会だったのである。障害競走が、運悪くも全く未経験の自転車車輪を細い棒で押してころがすのだった。練習なしで出来るものではない。他の連中は遊びで要領を得ており、難なく過ぎて行った。私の輪は、押しては右に倒れ、押しては左に倒れて、一向に進まない。満席の村人達の目が、私一人に集中している。ドロンと消えたくもあり、泣きたくもあった。私一人のレースが、どのように終わったか、記憶がない。父が運動会に来たのは、この回が最後だった。その後、私は車輪まわしを特訓した。

PTAとして参加する年齢の時、同じ車輪まわしに参加したが、他の親たちはこの遊びをやっておらず、私のが模範競技であった。ある人曰く、「あん人は相当遊んどっばい」。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

上り口説

井上トシ

沖縄の古典音楽の一つに「上り口説」という楽曲がある。口説とは、大和言葉の七五調を基本とし、同一のメロディーを繰り返しながら、道行の景色を語るものである。

浄瑠璃の口説歌は室町から江戸時代にかけて念仏踊り系の伊勢踊りとして踊られ、物語風の内容を歌って全国的に流行した。沖縄の口説は十七世紀以降、薩摩藩による琉球支配の時代に伝わり、七五調の大和言葉を沖縄の言葉（ウチナーグチ）に変えて歌われた。

上り口説とは薩摩支配下の琉球で、当時の参勤交代と同じように薩摩や江戸に琉球使節が首里から那覇、奄美から鹿児島に向かう船旅を歌ったもの

である。一番から八番までの歌詞と発音（ウチナーグチ）、歌意を紹介する。

一、旅ぬ出立 観音堂 千手観音伏拝で 黄金酌取て 立別る

（発音）たびぬ んじたち くわんぬんどー しんていくわんぬん ふしうがでい くがにしゃくとうてい たちわかる

（歌意）旅のはじまりは観音堂、千手観音を伏して拝み、別れの金盃を交わし立ち別れる

二、袖に降る露押払ひ 大道松原歩み行く 行けば八幡 崇元寺

（発音）すでいにふるちゆうしはらい

うふんどーまちばらあゆみゆく ゆきはちまん すーぎーじ

（歌意）袖に降る露を押し払って、大道松原を歩き行く、行けば八幡崇元寺

三、美栄地高橋 打渡で 袖ゆ連ねて諸人ぬ 行くも帰るも中之橋

（発音）みーじたかはし うちわたいい すでいゆちらにてい むるふいとうぬ ゆくむかいるむ なかぬはし

（歌意）美栄地高橋を渡り、袖を連ねて全員が、行くのも帰るのも中之橋を通る

四、沖ぬ傍まで親子兄弟 連りて別ゆる旅衣 袖と袖とぬ露涙

（発音）うちぬすばまでい うやくちよーでー ちりていわかゆるたびぐるむ すでいとうすでいとうぬ ちゆなみだ

エーイ ありにみゆるわ うかいむん ふじにみまごーさくらじま

（歌意）燃える煙は硫黄が島である。佐多の岬を併走しながら、向こうに見えるのは開聞岳、その先には富士と見間違えうほどの桜島だ。まもなく到着するぞ

いかがですか？ 情景が思い浮かべられますでしょうか？

球磨人吉のお隣の鹿児島、また熊本では天草の牛深や崎津は江戸上りの寄港地でもあり、親しみを覚えますし、歌詞に触れると当時の制度や安全を願う人々の心、思いが感じられます。また方言（球磨弁）も大事にし、後世へと語り継いでいかなければという気持ちにさせる唄です。

本稿脱稿後、首里城の突然の火災の報に接し、驚き、深く悲しんでいます。早期再建を願ってやみません。

【いのうえ・とし／人吉市】

（歌意）沖（臨海寺）のそばまで親子兄弟を連れて、別れを惜しむ 旅装の袖には涙で露のように濡れている

五、船ぬ艦綱疾く解くと 船子勇みて 真帆引きば 風や真艦に午末

（発音）ふにぬとうむちな とうくどうくとう ふなくいさみてい まふふいきば かじやまとうむに んまふいちじ

（意味）船のとも綱を急いで解き、船員が勇ましく真帆を引けば、風は船の後ろから南々西の風をはらむ

六、又ん巡り逢ふ御縁とて 招く扇や三重城 残波岬ん後に見て

（発音）またんみぐりおーぐいんとうてい まにくおーじやみーぐしくさんばみさちんあとうにみてい

（歌意）又の再会を願い別れを惜しみ 三重城から扇を振って見送られ、

あつという間に残波岬も通り過ぎた

七、伊平屋渡立つ波押添いて 道ぬ島々見渡しば 七島渡中ん灘安く

（発音）いひやどたつなみうしすいてい みちぬしまじま みわたしば しちとーとうなかなだやしく

（歌意）伊平屋島の沖に立つ波は船を押し、航海を手助けしてくれる。奄美の島々を見渡し進み、トカラ列島の航行も海は平穏である

〈注〉伊平屋島沖やトカラ列島沖は、台風を含め特に航海の難所である。「言霊」を使い航海の安全を祈る意図が感じられてならない。

八、燃ゆる煙や硫黄ヶ島 佐多ぬ岬ん走り並で（エーイ） あれに見ゆるは御開聞 富士に見紛ふ桜島

（発音）むゆるちむりや ゆをーがしま さだぬみさちん はいならでい

ハーヴェストの頃

あるぼ

1972年は僕にとってもエポック的な年だった。

大学受験、そして初めて親から離れひとり暮らしの年。

そんな1972年には社会的にも色々な出来事があった。一番記憶に残っているのが赤軍派の浅間山荘立てこもり事件。それこそまだテレビもデ



ニール・ヤングの「ハーヴェスト」



「カムアタイム」

ジタルではなかったのがガチャガチャとチャンネルをどこに合わせてもこの事件をやっていた。
恥ずかしながらと横井庄二さんがグアム島から帰還したのもこの年。
田中内閣の中国国交もこら辺じゃなかったかな？

そんな時期にニール・ヤングのアルバム「ハーヴェスト」が出た。
大学に入って最初にやったことといえ、何もない部屋にデンとサンヨーのOTTOとい

うコンポーネントステレオを置いたことだった。そのステレオで家から持ってきたレコードを聴きまくっていた。
当然その中にニールのLPレコードもコレクションに入った。

懐かしく思い出しLPレコードを探すが見つからない。
元々ニールをフォロワーしていた訳ではないし、誰かに貸してそのままになってしまったのかもしれない。その6年後に出た「カムアタイム」はジャケッ

トをお店に飾ってあるのだが…。
ま、それはさておき、この際だからと思い、アップルミュージックの取り放題に入っているのを機に一気に数枚ダウンロードした。そして「ハーヴェスト」も無事手元に入り今また懐かしく聞き入っている。

先日、知り合いの小林達也さんがお亡くなりになった。歳は僕と変わら

ないちよつとだけ上のお兄さんだった。

彼の会社の名前が「ハーヴェスト」と知った時は、やっぱり同世代は同じ空気と同じ音を聞いていたんだなあと

つづくと思った。

大の友人であった釣り雑誌「つり丸」の編集長であった樋口正博氏も小林さんと同じ歳、そして2人とも今年逝つ

高田渡の世界

鮎川 學

1969年4月にURCレコードより発売されたアルバム『高田渡／五つの赤い風船』に収録された曲の中に次のような唄がある。

「自衛隊に入ろう」

作詞…高田渡

作曲…マルビナ・レイノルズ

みなさん方の中に

自衛隊に入りたい人はいませんか

ひとはたあげたい人はいませんか

自衛隊じゃ人材もとめてます

自衛隊に入ろう入ろう入ろう

自衛隊に入ればこの世は天国

男の中の男はみんな

自衛隊に入って花と散る

スポーツをやりたい人いたら

いつでも自衛隊におこし下さい

槍でも鉄砲でも何でもあり

(以下略)

てしまった。2人ともあの世でなにを収獲しているのかなあ。

【あるぼ、飲食店経営／人吉市】

この曲は1968年8月に京都「宝積寺」で行われた第3回関西フォークキャンプに初めて参加した高田が歌い、注目を浴びてレコードデビューのきっかけとなった曲だが、1958年生まれの私は当時10歳、この時の話題は知らない。

後年、レコードで聞き、そのユニークな歌詞に驚いた。内容の解釈はそれぞれにませるが、当時は反戦歌として若者の心を捉えた。この歌詞には自衛隊を風刺する逆説的な皮肉が込められているが、1969年にTBSの番組で放映されると防衛庁（現防衛省）から自衛隊のPRソングとして使いた

いとのオファーがあったという逸話も残っているが、高田は「まともに受け取っているなあ」と思ったという。

このような衝撃的なデビューを飾った高田だが次第に、山之口貌、金子光晴、草野心平らの現代詩をアメリカの曲にのせる手法を取るようになっていく。この頃私は愛知県岡崎市の喫茶店で開かれたライブで、生で高田の歌を聞いている。木訥とした語り、し

わがれ声の哀愁のある歌いぶりで、とくに山之口貌の詩を歌った「生活の柄」は格別であった。

このような小さなライブを重ね、2005年、北海道白糠町（しらかちよう）でのライブ後に倒れ、入院。心不全により逝去した。享年56歳。
それから10年後に出版された『マイフレンド』高田渡青春日記1966〜1969』（河出書房新社）には次

のような日記が残っている。
「今、ぼくはアメリカのフォーク・ソングを学びたいと思っている。芸術は大衆の中から生まれ、大衆の中に大衆とともに生きるべきものです。ぼくはかならずやりとげます。何年かかっても……。 (1966・3・16、高田渡17歳)」

まさに歌に捧げた一生だった。

【あゆかわ・まなぶ／人吉市】

うた・歌・唄

ドニー・フリッツ

川邊敬子

サザンソウルの偉大なソングライターでありセツシヨン・ミュージシャンでもあるドニー・フリッツが、八月二十七日に亡くなりました。享年

七十六歳。
生まれ替わったらサザンソウルの聖地マッスル・ショールズのお掃除おばちゃんになりたい（できればFAME

スタジオの！）と願っている私にとっても、マッスル・ショールズの音楽シーンには欠かせないドニーの訃報は悲しいものでしたが、ドニーの素晴らしい功績、そして、ドニーが敬愛していたアーサー・アレクサンダーについて改めて想いを馳せる機会にもなりました。

アーサー・アレクサンダーは自身のオリジナル曲を、ビートルズ

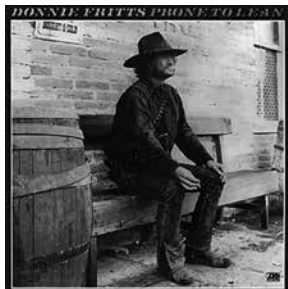
記録しました。

(「Anna」他)、ローリングストーンズ、さらにはディランにもプレスリーにもライ・クーダー等々にもカバーされたシンガーソングライターで、カントリーソウルの創始者とも言われています。

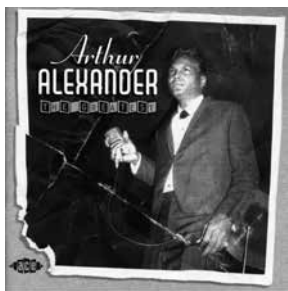
のちにローリングストーンズにカバーされることとなる一九六一年発表の「You Better Move On」は、マッスル・ショールズからの初のR & Bのヒット曲となり、全米チャート二十四位を

多くの素晴らしいソウルミュージシャンの中にその名が埋もれてしまいがちなアーサーですが、「You Better Move On」ヒットの影響は大きく、曲を録音したFAMEスタジオの創始者リック・ホールはこの曲の成功によってFAMEレーベルを確立したそう、マッスル・ショールズ・サウンドにとつても、その後のサザンソウル隆盛にとつても、重要な役割を果たした人物と言えるのではないしょうか。

アーサーの淡々と



ドニー・フリッツ



アーサー・アレクサンダー

丁寧な歌い込みでいくヴォーカルには、パワーやディープさはないものの、仲間達から愛されたという人間性がじわじ

わと胸に染みてくるような、どこか切なさ漂っているような、何とも言えない味わいがあります。
なかでも私が好きなのは、数々のサザンソウルの名曲を手掛けたダン・ペンとドニー・フリッツが親友アーサーを想って作ったとされる「Rainbow Road」です。
南部に生まれた貧しい暮らしの中で、夢と希望を持ち続ける内容らしいのですが、歌詞が解らないわたしが聴いても、切なさや優しさと強さが滲み出るような深い魅力を感じています。
そしてまた、私がこの曲に惹かれるのは、曲が生まれた背景です。
肌の色や生まれた場所が違っても人間は皆平等だという当たり前の事が当たり前でなかった時代に、人種

に関係なく若者達が協力し合って曲作りに情熱を注ぎ、お互いをリスペクトしていた、そんな場所マッスルシヨールズ。(サザンソウルを代表するソングライターであるダン・ペンは「黒人に導いてもらうまで、おれらは何も知らなかった」とさえ語っているそうです。)

悲しく忌々しい人種差別がはびこっていた時代に、白人も黒人も誰に遠慮することなく肩を並べて仕事



トリビュートアルバム「June」

が出来たそんな地で、純粋に友情を育んだ白人のダンとドニー、黒人のアーサーが、仲間達と共に作り上げた作品「Rainbow Road」。

はじめは何も知らないまま大好きになったこの曲ですが、誕生した背景を知ったのちは聴く度に込みあげてくるものを押さえることが出来ず、わたしにとって特別な曲になりました。

引退してスクールバスの運転手をしていたアーサー・アレクサンダーは、十五年の時を経てダンやドニー達の尽力で復帰しますが、一九九三年、復帰後初のアルバム「Lonely Just Like Me」を発表した三ヶ月後に心臓発作で急死します。享年五十三歳でした。

ドニー・フリッツは豊かな米南部サウンドを作り上げる裏方として活動を続けながら、自身の素晴らしい

ソロ・アルバムも何枚かリリースしています。

晩年も「Oh My Goodness」といういぶし銀のようなアルバムを発表しますが、最後の作品は、アーサー・アレクサンダーへのトリビュートアルバム「June」でした。

アーサーが亡くなつてから二十五年も経った二〇一八年の発表で、その人柄と才能が人々に愛されたアーサーへのドニーの想いが、どれほど深かったかが伺えます。

Juneとは仲間内でのアーサーのニックネームとのことで、このアルバムのジャケットは、ドニーとアーサーが肩を組み微笑んでいる写真で飾られています。

【かわなべ・けいこ／吉市】

「吉田松陰の心」が繋ぐ 長州と肥後相良

富永和信

私は人吉高校五回生の昭和二十八年卒業で、山口在住約六十年、すっかり山口の人になっている。

すでに超高齢者に近いところに属し、霞を友となし趣味の歴史探訪や、それをもとに雑文づくりに余生を費やしている昨今である。縁あって本誌にも拙文を掲載いただいている。

私は主として文化歴史関係の諸団体に属しているが、その中の一つに公益法人「松風会」があり、一役職をいただいている。当会は長州山口県人が崇敬してやまない「吉田松陰先生」を顕彰し、その精神を広く後世代に

伝えることを目的とした」由緒ある団体である。

先日、長年無秩序に集めた雑多な資料を終活のつもりで整理しようと手をつけた。その中に、松風会の会誌「松門」の昭和六十三年九月一日発行の第7号があった。私が何気なく見ていた文中に『松陰の心を求めて』吉澤典雄 元・熊本県人吉市立第一中学校校長」とあるではないか。山口地方の二会誌に我がふるさとの地の校長先生の一文があるとは、まさに驚きの一言に尽き、夢中になって目を通した。

読み進むうちに肥後相良に、かく

も吉田松陰に心酔し、研究されている先生がおられたことに深く感動せざるを得なかった。また同時に、松陰のかように後世に至るも、その思想信条や生き様が世紀を越えて人々に影響していくものか、と改めて松陰の偉大さを思い知ったのである。もちろん松陰については一部にその実績について否定的な人もいるが、である。

松陰と肥後との関わりは人と人との関わりである。周知のことであるが、まず第一の人は、肥後藩士宮部鼎蔵である。宮部は松陰が最も信頼し、その姿勢を高く評価した無二の親友である。

二人は松陰の九州遊歴に端を発し、東北への旅、そして下田踏海に至るまで同道するほどの肝胆相照らす同志であった。

松陰は宮部を「彼は毅然たる武士

なり。僕、常に以て及ばずと為し、毎々往来して資益あるを覚ゆ」と評している。平たく言えば「宮部は強い信念を持った武士の中の武士。何度も交遊しているが、その度に有益な知学を得ている。僕は彼にいつも及ばない」と、述懐しているほどである。余談になるが、鼎蔵の記念碑が熊本市内坪井に「贈正四位宮部鼎蔵先生邸址」と刻まれた石碑が残されている。

鼎蔵は養家と生家の両親によく孝養し篤行の範となつている。彼は、「まず家安んじて国治まる」が持論で、



松陰神社（東京都世田谷区）にある松陰座像

「忠孝」の論を唱えている。このような信義に厚い彼の精神が松陰の琴線に触れ、共鳴したのであろう。もう一つ面白い話が残っている。宮部の娘は松陰（寅次郎）によく親しんでおり、「寅ちゃんの来て、また黒砂糖ば喰いよらすよ」という話が残っているほどに幕末の二人の偉人のほのぼのとした交遊の深さが偲ばれる。

もう一人の肥後の人は、松陰が私淑した横井小楠である。小楠は宮部邸近くが生誕の地である。「実学党」と呼ばれた教育論をもって肥後藩の指導者であり、松陰はこの小楠を高く評価し、彼の指導論も参考にしていた。

ここで私の小稿の本旨である「松陰の心」と相良人吉の話に戻ることにする。

冒頭の元・人吉第一中学校長

の「松陰の心を求めて」から要旨を抜粋して吉澤先生が如何に松陰に心酔し、教育の基軸として実践されてきたか、その大きな事績の一部であるが紹介したい。

吉澤先生は教職三年目の昭和十三年（一九三八）頃、なんとなく吉田松陰という人物に心ひかれていた。そんな折り、玖村敏雄先生（山口県の著名な教育者）の著書『吉田松陰』にめぐり逢い、いたく感銘啓発を受け、以後自身の教育の基軸として研鑽を積まれた。三十歳のとき召集を受けた時には、唯一『吉田松陰』一冊を懐に出征されたほどである。

昭和五十一年、人吉第一中学校を最後に教職生活を終える。その折り、元人吉市教育長坂田貞雄先生から退職記念として玖村敏雄著『吉田松陰

いくであろう。

以上が吉澤先生が会誌「松門」に寄せられた貴重な文章のあらましである。

私が高校卒業まで育った相良人吉に、かくも松陰研究に情熱を注がれ、その精神を地元の教育に尽くされた長年の努力に胸をうたれ、本誌を借りて筆足らずながら紹介させていたただいた。

私は相良村出身で、先生を存じあげていないので、先生の教職当時や、その後について知り得ることが出来ないことが残念でならない。願わくば吉澤先生の薫陶を受けた心ある後輩教職の人が、先生の意志を次世代に少しでも継承されんことを念願してやまない。

【とみなが・かずのぶ／山口市】

の思想と教育』を賜る。同時に自身で求めた山口県教育会篇『吉田松陰全集』全巻を教本として、『松陰の研究』に専念するという第三の人生を選択された。

それから「教育は国家百年の大計であり、その教育は人にある」との理念のもと、郷土の心ある青年教師たちと呼びかけて「松陰研究会」を立ち上げ、有志ある教師たちの参画を得た。

昭和五十七年八月、会員一同で宮崎県霧島に籠もり、「松陰の心とのめぐりあい」を中心課題として、これからの教育のあり方について夜を徹して論じた。

昭和五十九年正月から吉澤私宅の「如是庵」に於いて「松門研究会」を発足し、毎月一回「松陰入門」の輪読を中心に開催。この輪読会は、

この旅の記録は郷土地方紙に連載され、大きな反響を呼び、「松陰の心」の輪は相良人吉の地に広がり始め、我が国の教育の夜明けさえ感じられた。そして松陰研究会は今その一歩を踏み出したに過ぎない。「源は深く流れは遠し」。真の「松陰の心」を求めんとすれば今後果てしなく広がって

漢和字典は面白い

27

鶴上寛治

塾

世は学習塾の花盛り。少しでもいい学校に行つて、いい会社に入り、いい家庭を持つて、老後を安穩に過ごし、過不足のない遺産を残し……。

人の一生を左右する分かれ道で勝利を得るために塾へ塾へと草木も靡くのか？ 学力とは何か？ 最高学府を出て難関を突破したような人のウツまみれの官僚の無様な姿、政治家の傲慢さマル出しの発言の数々——一体その優れた学力を何に使うのか？塾ではそんなことは教えてくれなかったのか？

筍

音はシュン。「旬」と同じだ。タケノコのこと。竹の子と書いても構わないのに「筍」という字を造つて表現する東洋人の心豊かさを誇りに思いたい。すべてのもの（食物だけでなく、人間にも、自然にも）に「旬」（食べごろ）がある、という感覚が素晴らしい。「茸キノコ」——木の子でもいいのだが「茸」という字を造る文化が東洋にはある。

屁

「比」はこれが放たれた時の音声である。表音文字というべきか。「俺のとは音が違う」という方は、ご自由にその音を「比」の代わりに書き込んでください。相手にわかるかどうかは？ 無音だ！ という方は「盗」と書いてください。それは「盗つ人屁」ですから。匂いまでは表現できないのが残念です。

税

一瞬、「脱」と「税」は仲間？ という錯覚に陥りそう。二つの字に共通する「兌ダ」はへ抜け落ちる」という意味。いよいよ脱税したくなる。提案される議案の「説明」が、あちこち抜けていて意味不明……。でもそのまま審議不十分のまま採決。「説」という字、もともとそんな作りなのか。トリセツ（取扱説明書）などと、わざと「抜け落ち語」をはびこらせるのは困惑する。せめて役所だけは庶民（普通の人）にもわかる用語を使つてほしい。

【つるかみ・かんじ／人吉市】

鶴鴿短歌会

十月詠草

彼岸会に伽藍の中で読経聴く亡き妻人ら次々甦る
露草は夏の終り告げるがに朝の陽を受け花も耀き

守永 和久

山頭火訪ねし日奈久の街を往く迷い迷いて「おりや」の宿に
日奈久路の入江の秋は波静か太陽の道を舟は過ぎゆく

河内 徹夫

ラグビーの金星のその瞬間夫の「声援」若者のごと
秋空の実るみかんに出会ふ度小五の時の授業蘇りて

中村美喜子

町内のグランドゴルフ侮れず更なる努力新たな技を
「長寿には読書が良いと」友が言ふ我一冊本を推すめり

西 武喜

一人居で気ままに暮らす庭先に主の顔して野良猫親子
洗顔の水の冷たさ少しづつ秋はたしかにそこまで来てる

釜田 操

時季よりも早く咲きそな西王母茶正月まで待つてと願ふ
雨の朝右膝下に激痛がどろぼう除けの木刀杖に

三原 光代

返納し移動にことかく日々となり気持ちの整理向き合ふ日々が
誘われて涼みかねてパチンコへ寒い冷房中に入れず

中原 康子

大型の台風一過秋の風十六夜の月中天にあり
夕立に雷神も来てあかり消ゆ灯明借りて戦時を偲ぶ

橋詰 了一

紅葉なす樹々を貫く夕ひかり祝祭のごと煌めきいたり
指先に力をこめて茄子苗を植ゑ居る妻に午後の陽淡し

堀田 英雄

年念し
450 誕生
下ろし
き記書

小説・相良清兵衛

23

山口啓二

球磨川沿いの地下室も同様に壊して埋め、更に硬い土で覆い隠され、その作業は深夜まで続いた。これですべては闇に葬られた。まさに『遺された謎の地下空間』である。誰もその存在すら知らなかった遺構二ヶ所を掘りおこし発掘調査がされ、もとの形に忠実に修復されたのは事件後三百六十年を過ぎてからである。球磨川沿いの清兵衛船着き場そばにある三つ目の地下室は未だに発掘調査すらされず、そのまま放置してある。

翌八日の午前、予期していた通り細川越中守の使者が城内に訪れた。すでに事件を予知し芦北・告の寺で待機していたもので、その見分は二日間に及び、それから岡麓の清兵衛隠居所にも搜索が及ぶ事となった。

黒崎港で天候の具合をみたのち、漸く穏やかになった瀬戸内海を渡っていた一行は、小豆島のすぐ傍を抜け東へ向かった。かの七基の『織部灯籠』はここで造られ、大海原

【前回までのあらすじ】清兵衛はあらゆることに力を発揮していたが、そのさまがあまりにもひどかったので藩主頼寛は幕府に訴えた。清兵衛が幕府からの呼び出しを受け江戸に向かったその後、ついに相良家最大の御家騒動『お下の乱』が起った。

を西へ渡って山を越え、遙か人吉の地まで運ばれて来たのであった。感慨無量の清兵衛一行であった。

さらに人吉出発から二十日後の七月十一日、清兵衛一行六十名余りはやつと大坂に着き、ここからは川舟を使い、上流の伏見に到着した。久方ぶりに訪ねた懐かしい伏見城下はかなりの賑わいをみせており、大きく様変わりしていた。

一行は名残りを惜しみそのまま箱根を目指したが、途中の宿場で国元の大事件を聞かされた。

「なんと、半兵衛が謀反を企てたとな。わが屋敷ならずとも、内蔵助の屋敷も、更に持仏堂も焼き払い、そのうえ一族百二十一名が討ち死にしたと申すのか。それは誠か」

いよいよ定まった。

ようやく江戸に着くと早速、老中安部四郎五郎正之、渡辺図書助宗綱の立ち合いで詮議がとり行われた。

「清兵衛殿、お国元ではなにやら大変な騒動があったやに伺いますが、なぜあのような事に」

「いや、拙者も道中の出来事だった故、一向にその件判りかねます。その折にはちょうど瀬戸内の船の上でございました」

「相良家では内紛が起るような事が何かございましたか。まさかこたびのお手前の江戸登城が発端ではありませんまいな。何やら不穏な動きありとの話でござったが」

「そのようなことは決してござらぬ。いや、なんという事をしでかしたものでやら」

「左様か。さて、相良老岐守殿の訴えは以上の十三ヶ条にも及んでおるが、それに相違はござらぬか」

「わが殿のお訴えとあらばこの清兵衛、認めぬ訳には参りませぬ。どうかご存分なるご処置を」

「それにしてもあの戦乱の時代、主君の領地を護り抜かれたのは誠に千万。しかし相良殿の訴えに相違なければ余

「は、間違いござりませぬ。拙者その誠に悲惨な始終をこの目で見て参りました。一同全て矢黒の『亀が淵』に運ばれ、埋められてございます」

この知らせをくれたのは丸目蔵人佐が育てた密偵の一人で修験者の辰心坊であった。普段は清兵衛の手下として働いており、多くの関所をすり抜け追いかけて、清兵衛にその一部始終を語った。清兵衛をはじめ一行はまさかの事に驚き、さてこれから江戸に着いたらどんな沙汰が待ち受けるかが案じられた。

この出来事はすでに各関所に伝

えられており、道中六十人以上の人数のために箱根の関所では清兵衛以下八人のみが通行を許され、残り五十人余りは止め置きに処置となった。そのあと小田原に着くと、清兵衛が持っていた清正公の遺品の、あのきらびやかな装飾が施された槍は勿論、腰の大小も取り上げられ、さながら罪人の如き扱いとなり、清兵衛の覚悟も

■主な登場人物

相良清兵衛（犬童頼兄）＝相良家 家老
相良頼寛＝相良家 第21代当主
犬童半兵衛（頼昌）＝清兵衛の養子

りにもそなたの横暴としか申せまい。のう渡辺殿」

「左様にござる。しかしそなたは朝鮮をはじめ関ヶ原での功績も讃えられ、恐れ多くも神君家康公とのお目見えも幾度もされているゆえ、まさか切腹という沙汰は如何なものかという事に相成りましてのう」

「しかるに、先ごろ弘前藩主津軽士佐守殿から、お手前をお預かりしたいとの申し出があつてござる。なにゆえ弘前藩がと思索しておつたのだが、そなた御心当たりはござらぬか」

「津軽殿は石田三成殿の血縁に当たられるとのことでございます」

「はて、三成殿の血縁とな。三成殿とは朝鮮では然々ござつたがそのあとは幾度か取り持ちを戴いておつて、更に行長殿、宗義智殿との因縁はあり申したが、あいやしばらく。もしやとは思いますが、確か津軽信牧殿には石田三成殿の娘御、辰姫殿が嫁いではござりませなんだかのう。もしそうなら親父殿の敵討ちでもお望みで御座ろうかな」

「いや、実はその儀はすでに調べてござる。信牧殿も辰姫殿も既に十年以上も前にお亡くなりで、今は世子信義

殿が跡目を継いでござる。三成殿の御孫に当たられる。ときに貴殿の地では三成殿はじめあの時の諸侯六名の三十三回忌の供養をご当家の菩提寺にて執り行われたそうで御座りましたな。そのうえその菩提寺に各々の五輪の供養塔までお建てなされたとか聞き及んでおりますが」

「その縁で是非ともお手前をお預かり申し上げたいとの事のでござるが、如何なされますや」

「成程。左様でござつたか。寛大なご処置痛み入つてございます。うーん、まさかなるほど、そういう事でござつたか。ではしかるべくそのようにお計らいを」

「あい解りましてござる。越中守信牧公の亡き後を継がれた津軽士佐守信義殿が丁度参勤してござる故、ではそのように取り計らいましょうぞ。重ねて申すが土佐守は石田三成殿の御孫に当たられますでな」

「そうなりますな。しかしこのような事になるとはゆめゆめ思いませなんだ」

「ときに、少しばかり昔話をしまそう。清兵衛殿は神君家康公と幾度のお目見えを果たされた由、初のお目見えは何時でありましょうや」

「太閤秀吉殿下のご葬儀の際にお見かけは致しております

したが、お目通りは関ヶ原の一戦のすぐあとにござりました。大垣での軍功を賜り相良領地を安堵され、拙者その折に青井大明神の普請の件でお願いを致し申した。それから、清正公との朝鮮での虎の昔話などをした覚えがございます」

「何と申される。朝鮮の清正公と言えはあの虎退治の一件にござるか。そういえばあの虎はすでに罫に捕えられていたものだから。もしやあれはそなたの首尾であつたと申されるのか」

「ちようど北方より御帰還の折りにござつたので、手土産に差し上げた次第にござる」

「ほう、そうでござつたか。それは笑止、のう阿部殿。あの戦いは全ての方々がえらく御苦労なされたそうよのう。そういえばそなたは初陣は齡十四の時だったやに」

「は、父頼安が城代として護つていた水俣の城が島津に攻められておると聞き及び、ひとり人吉をあとにしました。水俣のすぐ手前のすでに空き家の農家で喰い物を探して居りましたところ、島津家家臣新納忠元殿のご一行が検分に来られ、火を放つていかれ申した。拙者暗闇の藪の中を走つて来ましたゆえ着るものも破れ果て、父上から頂い

ておつた相良家家紋入りの小刀を持参しておりましたが、その刀は丁度そこにあつた薪に巻いて隠しておきましたゆえ大事には至らなんだ。そうじゃ、その折に新納殿は握り飯をくださつたのでしたなあ。で、そのあと水俣の城になんとか忍び込みました。その折が初陣にはござつたが、抜刀までには至りませなんだ」

「なんと、薩摩の鬼武蔵と呼ばれた新納忠元殿から握り飯をと。それは恐れ入つてござる」

「そののち十七のころ島津と共に豊後大友殿を攻める折にお会いしてその話をしたら、『なんとあの時の小倅はお主であつたか、それなら質にとつて御父頼安殿との交渉にすべきであつた』など悔やまれておいで。もしその時刀が見つかれば恐らく即座に殺されており、勿論のこと今こには居りませなんだのう。薩摩の豊後攻めには相良の衆がいつも島津軍の先陣を任せられ、ことごとく城を落として参りました。拙者阿蘇の堅志田城を攻めます折、漸く城内に侵入して門のかんぬきを抜いたかと思つたら、鉄砲の弾が兜の真ん中に当たり気絶した事もござつた。その褒美とやらで新納殿より下げておられた刀を戴き申した」

「それは笑止千万。面白いお話を賜り申した」

「そういえば家康公と二度目にお会いした折には『鉛筆』と言われる書きものをくださりました。筆とは違い細くて硬い箸のようなもので、周りを削つて中の芯で字を書きます。なんでも伴天連の者からの贈り物だったとか。一本は剣の師匠丸目藏人佐殿に差し上げましたなあ。面白き物と申され、のちに肥前に行かれる折にお持ちになられたそうで」

「鉛筆とは聞きなれぬ物にござるが、はてどんなものかちと浮かんで来ぬが。で、朝鮮での戦いも辛いものであったと聞いております」

「は、清正殿のご命令で相良軍八百が安遍城を護つた折、暫くして数万の明兵に囲まれましたが、我が殿は城を死守すると清正殿と約束した故、ここで討ち死にも覚悟して城を守り抜く、と申されました。我ら執拗に応戦しましたが敵兵は幾万の騎馬軍、もはやこれまでと案じておりまして。すると馬の食料も尽き果てたか三日目の朝に敵兵はすべて消えておりましたわ。あの時はまこと肝を冷やしました。あの大军にあのまま攻められたら我が僅か八百の兵はひとたまりもなかったに違いござらん。亡き先君の御命令で城に留まり、明の大军と戦つたのでござる。しかし朝鮮での最大の敵で、一番辛かったのは冬の異様なまでの寒さ

行われるよつて、それまで赤坂の屋敷で謹慎なされるよう」

「二族が乱を犯したとなればその総領のそなたにも責任はあろうが、そなたすでに隠居の身、その上登城のさなかの船の上の出来事となれば詮索も出来得ぬであらう。のう渡辺殿」

「御意。すでに幕府用人が肥後人吉に向けて出立しているゆえ、その報告を待つての沙汰になろうかと御心得あれ」

人吉では目付役の細川家の見聞が済んだ頃、次はなぜか島津家が巡視に入った。大事件が起きて数日後であった。やはり島津も事が起きるのを察知していたようだった。

八月になると江戸表からの検視がなされた。しかしキシリシタンにまつわるものは何一つ発見されず、もちろん全ての地下室は完全に埋め戻されその痕跡すらなかった。『相良家の単なる内紛』と判断されて万事事なきを得た。

江戸では八月の二十七日と二十八日の両日、改めて相良清兵衛頼兄に対する審議が行われ、その後清兵衛は弘前藩津軽家へお預け、という沙汰がなされた。いわば『流罪』、清兵衛頼兄すでに七十三歳の秋のことであった。

(つづく)

【やまぐち・けいじ／人吉市】

にござつた。加えて食糧が底をつき、ついには木の根や皮を煮て喰い、さらには屋敷の土壁に敷き込んだ藁まで煮て食しました。弱つた馬を殺し生温かき血をすすり、骨と皮以外すべてを皆で平らげましたなあ。隈本で馬を食すようになったのはそれからかと」

「左様でござつたか。生きて帰られた諸将はみなつらい思いをされた旨、伺っております。もう四十年以上も前の事でもいまだに話題に上りますなあ。ときに清兵衛殿、お手前の石高はいか程になります」

「建前は二千五百五十石なれど、恐らく八千石ほどはござつた事かと」

「なんと、八千石とな。二万二千石余りの小藩でそれは余りにも多すぎでは」

「相良家はすでに八万石ほどの知行が御座いますれば、そのくらいは戴いてもよろしいかと」

「いや、この度の訴えには実はその事も別途記されておる故、やはり貰いすぎであらうて」

清兵衛は前もって頼寛公との打ち合わせの通りの石高を報告したのであった。

「あい解り申した。さて審議は後日、幕府の評定所にて

各種書式取り揃えております。

新年のごあいさつ

年賀状印刷承ります

年賀状持ち込み歓迎！

印刷料金 (税込・はがき代別)

10枚 2,880円	70枚 5,050円
20枚 3,180円	80枚 5,440円
30枚 3,490円	90枚 5,820円
40枚 3,880円	100枚 6,200円
50枚 4,270円	150枚 7,990円
60枚 4,660円	200枚 9,690円

以後は1枚20円アップ

※モノクロ印刷は2割引きです。

喪中・欠礼は
お急ぎください

2020 (令和2) 年用
年賀葉書は2019年11月
1日 (金) から売り出され
ています。特に喪中ハガ
キはお急ぎください。



人吉中央出版社 TEL23-3759

お休みどころ通信 ⑩

京都アニメーションの放火事件について ①

精神科医 興野康也

事件の数日後、母と話していて、「京都アニメーションのアニメの聖地に行ってみよう」という話になりました。「豊郷小学校旧校舎群」の建物が『けいおん』というアニメの舞台のモデルになったと考えられているそうですが、母も含めて家族で出かけたのですが、豊郷町は琵琶湖の北部の田園地帯にあり、かなりのどかです。ここにアニメ好きの人が集まるというのは不思議な気がしました。

着いてみると、すごく美しい建物です。学校の校舎というところ「無機的な

箱」のイメージなのですが、別荘や地域のコミュニティ・センターを連想させるような清潔感のあるたたずまいです。あとでわかったのですが、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880～1964、建築家・社会活動家・宣教師）の設計による建物でした。友人のグレッグさんが研究していた人物ですので、僕も知っていました。滋賀県の近江八幡の地に理想郷を作ろうと奮闘した人で、いまでも多数の建築物や病院・高齢者施設などが残されています。グレッグさんもお休み

どころを理想郷にしようと応援してくれましたが、ヴォーリズの活動をイメージしていたのでしょうか。「ヴォーリス自身は自分は（理想郷の建設の）失敗者だと思っていた」とグレッグさんは言っていました。ヴォーリズの理想は実現しなかったのかもしれませんが、人々のためになるものというのは理想が崩れた残骸のなかにあるのかもしれない。

豊郷小学校は老朽化で閉校になり、いまは地域の公的な建物として使われています。例えば老人会やシルバー人材センターや子育て支援センターなどが入っています。母の話では建物を取り壊すかどうかで地域住民が二分して争ったそうです。そのような苦闘があつて、いま残されているわけですが、そこにアニメ好きの人たちがた

くさん訪問しています。喫茶店やグッズ販売店まで出来、町の主要な観光地になっています。いまに思えば「なんでこんなに大事なものを壊そうとしたのだろう？」という感じがしますが、試練があつたのですね。

豊郷小学校の一角の喫茶スペースでお昼を食べました。地域の人の手作りのお寿司やタコライス、バーガーなどがあり、とてもおいしかったです。京都アニメーションの方角に向けて、たくさんの献花が並んでいました。僕

たちの滞在中にも、若い女性の方が花束を捧げていました。

僕自身はアニメーションを見て育ってきましたが、それほど深くアニメーションを愛する人たちがいて、「自分がアニメに支えられた」



滋賀県の豊郷町にある豊郷小学校。たくさんの花束やメッセージが京都アニメーションの方角に捧げられていた

と感じていることに驚きました。京都アニメーションの作品は多くの人にとって心の奥の大事なものになり、地域おこしの方法にまなびがなっています。これこそ芸術の力だと思いました。科学技術文明が進めば進むほど、人は自分に固有の人生の物語を求めます。アニメーションはその物語を提供できる方法の一つであり、場合によっては「生きる意味」さえも提供できるのでしょう。アニメーションの力がいかに大きいかを人々に知らせたのが、今回の事件にもし意味があるとするなら、そのほんとうの意味なのかもしれません。京都アニメーションのスタッフの皆さんのすばらしい仕事に心から敬意を抱きました。

【おきの・やすなり／人吉市】

倉敷便り

34

絵と文／原田 正史

玉野市渋川海水浴場

倉敷市中心部の美観地区から、東側に5kmほど離れた帯高の自宅を、令和元年八月七日の朝七時に出発し、瀬戸内に面する著名な海水浴場である玉野市の渋川海水浴場を、娘の車で目ざしました。また別の車で、孫一家も同行しました。

ところがその目的は海水浴ではなく、海岸の砂の中に体を埋めて、体内の不純物、すなわち毒素を砂に吸い取らせるという民間療法を行うためだったのです。娘がその民間療法の本を読み、やってみたいと思いついたのです。そのこと

を聞いた孫の嫁も「私もやってみたい」と言い出したのです。当初は、私が娘の砂かけ役を引き受けていたのですが、そのために娘と孫嫁との砂かけ役は孫がやることになり、私はお役御免となりました。

見渡せば前方はるかに四国山地が、黒味がかった藍色の山肌を見せて横たわり、瀬戸内海の島々が点在する中、西方かなたに瀬戸大橋が優美な姿をうつすらと見せています。まことに見事な景観であり、心が洗われる思いです。

瀬戸内海といえば小学校六年の時にちなむ昭和十四年（1939）の修学旅行で、夜の瀬戸内海を別府から大

阪まで関西汽船の「錦丸」という船に乗り、通過したことが思い出されます。

錦丸の大きさは六千トンだったと思います。その後、錦丸は太平洋戦争の勃発に伴い、陸軍に接収されて輸送船となりましたが、米軍の潜水艦によつて乗員もろとも撃沈され、太平洋の藻屑となりました。錦丸には同じ大きさの「すみれ丸」という姉妹船がありましたが、錦丸同様の運命だったと聞いています。このことは、戦争に伴う悲しい思い出の一つです。

錦丸は途中一回だけ四国の港に入りましたが、港の名前は不明です。最近になって四国地方の友人に聞いたところ、大きな船が入ったとなれば愛媛県の松山港に違いないとのことでした。船が接岸した栈橋には、真夜中だというのに物売りの女性達がひしめき合いい、活気にあふれていました。なにし



瀬戸大橋望遠の図

る船が大きく、船腹が高いので、女性達は長い竹竿の先端に、品物を入れたザルを括り付け、大声で値段を叫びながら、線上に立ち並

ぶ乗客に向けて、ザルを押し上げるのです。ザルの中にはゆで卵とか握り飯といた食品類が多く、一部に土地の名産品を使用した土産物もありました。私も何かを買ったと思いますが、その品物も値段も全く思い出せません。それにしても昼だけでなく、夜にも働かねば家計が立ちゆかぬ人が大部分だった当時の貧しい

我が国の実態を如実に示しているのが、この栈橋での物売りだったのです。いずれにしても思いもかけぬ珍しい光景であり、大変驚かされました。錦丸は鳴門の渦潮の群れを踏み潰しながら渡り、翌日早朝に大阪港に入りました。

瀬戸内海航行中の私達の居住区は甲板上部の一等船室や二等船室ではなく、通常穴倉と呼ばれている三等客室でした。甲板から階段を下りると、それに続く中央の通路で左右に区切られただけの、だだっ広い空間が三等客室なのです。船室の左右の船腹には数個の丸窓が設けられており、そこから見えるのは間近に広がる海原だけでした。丸窓の前に居て外の景色を見ているのは私だけであり、他の人達は用意された枕と毛布を持って来て、それぞれが寝場所を定め横になると、あつという間に全員が眠ってしまいました。聞こえ

てくる寝息やイビキを音楽がわりに、私の一夜の観察が始まりました。この様な旅に出た時、外の景色を見続けるということは、その時が初めてではなく生来のもので、九十歳を超えた現在でもなお続行中です。この日私が熟睡したのは、大阪市内を見学後の参宮急行電車の車中でした。したがってこの区間の風景は全く記憶にありません。

大阪では、毎日新聞本社と造幣局を見学しました。この時、大阪のビル街は中心部の中の島付近だけであり、周辺部はすべてが木造建築でした。したがって当時の大都会の景観は、コンクリートの灰色ではなく、木造建築の茶色だったのです。その後訪れた京都の景観は、このような傾向が更に強く、背の低い僅かな数のビルが京都駅付近に存在するだけで、高い駅のホームから眺めた方形に広がる京都の景観は、ま

さに茶色そのものと言えるものでした。

伊勢に入って一泊し、翌日、第一の目的である伊勢神宮を参拝し、持つて来た故郷の丸い小石を全員が参道の玉砂利の中に落としました。ここでは五十鈴川いすずがわの清らかな流れと、神城に広がる原生林の緑に深い感銘を受けました。その後、奈良・京都とそれぞれ一泊して市内見学をした後、京都駅から汽車で一路故郷を目ざしました。

一週間に及ぶ長期の修学旅行の旅費は十円でした。当時の普通の人の月給が三十円ほどでしたから、安くなたと言えるでしょう。南九州の片田舎から伊勢神宮参拝を目ざすという郡内の全小中学校が参加した画期的な修学旅行は、戦争の激化に伴い一年だけで終結となりました。来年こそはと期待していた下の学年の生徒達の落胆は甚だしく、中には涙した生徒もい

たと聞きました。人の幸不幸は紙一重の差なのでしょう。

渋川海水浴場では、波打ち際に大小様々なテントが張られ、私達もその間に持参したテントを張りました。毒抜き作業も順調に進み、私はテント内に置かれた椅子に座り、作業を見ていました。ところが真夏の日光は強烈で、テントの中に居ても猛烈な熱気がお襲いかかってくるのです。このまま居たら熱中症になると思い、テントから出ました。砂浜を急いで横切り、砂浜の末端部にある松並木の下に非難しました。しかし熱気はここに居てもそのままだと来ます。どうしたものかと考えていたら、幸いなことに孫一家がやって来て、「おじいちゃん、水族館に入ろう」と誘ってくれました。すぐ近く

はクーラーが効いており涼しく、一息つくことが出来ました。

予定していた毒出しの時間になっていないから「一人だけ残る」と言う娘を砂浜に残し、孫の車で帰宅しました。夕方近くになって帰って来た娘の話では、「毒抜きが終わったら、今まで何ともなかった体の側面がチクチクと痛みだし、その時体内の毒素が砂に吸い取られたに違いないと思った」とのことでした。

本人がその様に信じている以上、海砂による毒出しは成功したものだと言えそうです。ただし、「あなたもやりますか？」と聞かれたら即座に「やりません」と答えるでしょう。何故なら私は効果が実証されていない行為は、同調しない主義だからです。

【はらだ・まさふみ／日本地質学会会員、倉敷市】

砂時計

— 思い出るままに —

⑫

小野武己

【三】 母のこゝろ

⑧ 芋アメの話 (上)

太平洋戦争に負け、丸裸で上海から引き揚げてきた我が家。母は子供六人を抱え、各地を転々とし苦勞の連続だった。上海時代の繁栄と敗戦後の没落との落差を認識出来ない子供の僕に、親の苦勞や悩みを理解せよというのは所詮無理な話だ。今ある生活がごく当たり前の自分の生活だとして素直に受け止めてはいた。それがたまたま貧しかったということであって、世間全般とんでもなく豊かな社会状況ではないのだが、自分の周りの子供達と比べて、何故同じことが自分の家には出来ないのだろう、という単にそれだけのことで子供の僕は怒ったり悲しんだりしたのであった。でもやっぱり子供は自分を抑えきれない。野球の約束が

あった時などに、母から用事を言いつかると口を尖らし、おねだりが叶わないと駄々をこね、我が家のぼろ障子は継ぎはぎだらけになり、襖には穴が開き。ペラペラとなり、猫のミィちゃんの絶好の通り道となる。

俯いたまま、黙ってしゃしゃかと仕立物の手を休めることなく進めていく母の心中は如何ばかりであつたろうか、出来るものならば、すんなりと子供の願いを叶えてやりたいのだと心の中では叫んでいたに違いないと今にして思う。

裸電球にキラリと光っては縫いさしの絹の着物の上にポトンと落ちて広がる母の涙。それを見て僕は言葉失つてしまいい、ごめん、と言うのも気恥ずかしくて、すぐすこと押し入

れの僕の指定席に籠ってしまうのだった。反省した僕は夜になつて、こっそりと軒下の濡れ布巾が被せてあるザルの中のご飯粒を口に含んできては、障子の繕いをするのだった。そうしたあと数日はきまつて優等生になり、隣の森田さんの井戸から水を汲んできては水がめを満たし、薪割りをし、流しの茶碗を洗うのだった。そのような現実の積み重ねの中で何時の間にか我慢することを覚えていき、自分の言動が母親を深く傷つけていたことを知る。なんだ、簡単なことではないか、自分が無茶を言わず、言い付けを守れば母は安心してくれる、

ということを知るのだった。親だもの、きつと、現状で出来る最低限の事はしてくれているのだという事を知る。

否応なく時は流れ、そして僕は小学校の上学年になった。我が家の、少し上り坂になった一間幅程の道路と側溝を挟んでの西隣は、浦さんといって子供が七人の家族が住んでいた。貰い水する井戸がある裏隣りは森田さんといい、地主さんでもあった。

その浦さんのおばちゃんは「芋アメ」を作る名人であった。早岐^{はいぎ}グラウンドで皆して泥まみれになって野球に夢中になっている時、さつま芋の時期になると時々おばちゃんの手作りの「芋アメ」の差し入れがあったが、それが子供たちの楽しみであった。だから一級下の浦君は野球は上手くないけど、みんな我慢して浦くんを野球の仲間に加えていたのであった。陽が西に傾き、お寺の鐘が鳴り、グラウンドの向こうに居並ぶ国鉄の官舎から夕餉の煙がうつすらと立ち昇る頃、やつと子供たちは引き上げていく。僕もかつてゴンさんから「お前のはグローブじゃなか、手袋たい」とからかわれた、母が徹夜して縫ってくれたホームスパンのグローブは卒業し、九電社長の叔父から貰った皮のグローブを大事に小

脇に抱えて、家路を辿るのだった。

ある日曜日、浦さんのおばちゃんが玄関前の庭で釜をのつけたドラム缶に火を点けていた。

天気上々で、絶好の野球日和なのだが、何故か野球やろうやの声もかからない。狭い庭に、浦さんの子供たちは勿論、ギツチョのヤスオくん、一級下の泣き虫トクちゃん、三振王の先輩ゴンさん、しらくも頭のイサオくん、涙垂れのケンちゃん、ひんがら目のサブちゃんと勢揃いだった。

浦さんのおばちゃんはドラム缶の煙にむせび、目をしょぼつかせながら、皺だらけのごつい手で涙をこしこしと拭き払い、ホッペを膨らませて火吹き竹をフーフー吹いていた。ドラム缶の火はひと吹きごとにメラメラと勢いを増していくのだった。

「おばちゃん、なんばしよつとね」

一足遅れて合流してきた、チジのタロちゃんが、尋ねる。

「イモは蒸かしよつとたいね」

こまじゃくれた浦さんの下から三番目の五歳の留子が答える。

やがてサツマイモが蒸されてきたのだろう、甘い匂いが漂ってきて鼻をくすぐる。

「さあて…」

今日は私が主役よ、とばかりに両手をバンと打ち鳴らすと、おばちゃんは首に下げた和タオルの端っこで汗を拭く。ついでにそのタオルを小指に被せ、両の鼻の穴の中をグイッと掃除する。和タオルのその部分が黒く色づいた。

「さあき、皆に、今から、芋アメば、ご馳走するけんが、よかね」

「おとなしく、待つとかんばよ」

蒸し上がったばかりのサツマ芋をザルに取り上げる。そして、フーフー、アチチと言いながら、手早く皮をむいて金盥^{かんらい}に入れていく。湯気をたてている黄金色のお芋さん、とても美味しそう。目を輝かせておばちゃんの一挙一動を追っていた泣き虫トクちゃんの咽喉がゴクンと音をたてた。

おしゃまな留子が金盥にソロツと手を伸ばし、彼女の拳大もある黄金色のお芋さんを掴んだが、アチチチーッと放り投げてしまう。

「トメっ、いやしんぼすっけんたいね。バチの当たったたたい」

そう言いながらも、おばちゃんはさして怒っている様子もなく目を細め、作業の手を休めずに、一口大にちぎったサツ

マ芋をフーフーと冷ますと彼女の口に入れてやる。留子がとても可愛くて仕方ない様子がありがた。今度は涙垂れのケンちゃんの咽喉がゴクン。

その時、「ターちゃん」と母が僕を呼ぶのが聞こえた。我が家はすぐ隣なので、玄関を開けていれば、大きな声を出さなくても聞こえるのだ。母の声のする方へ向き直ったので、おかげで唾液腺から溢れて来ていた唾をゴクンするのを悟られずにすんだ。走って戻り、玄関を入ってすぐの母の仕事場を覗く。

「ターちゃん、仕立物を、つよし屋さんに届けてちょうだい…ね」

「えーっ、ばつてんが…、浦さんのおばちゃんが…、芋アメば…」

「ね、お願いね…、急いでいるの…」

僕は母の「ね」に弱かった。時折、口を尖らすのだが、なんだか今日は僕の癩の虫の居所が良かったのかもしれない。

「よかたい、行って来っけんが…」

僕は風呂敷包みをしっかりと小脇に抱え駆けて行く。

(この項続く)

【おの・たけみ／小児科医院院長、宮崎市大塚町】

稲留三郎の世界 ⑬

―年中行事 十二月の続き―



前田一洋

大歳 吾俗 十二月晦日が大歳と云う。雑組及び代酔に拠るに、正月元日を小歳と名づく。之に対すれば晦日が大歳と名づくべし。

今正月十四日を小歳と云う。また門にダラの割木を飾ること、何の書にも見えず。

解説 男の年取りとか大正月などと呼ばれてきた「大歳」は、元日を中心にして七日ごろまでを云う。大歳の最も大切なのは「歳神様」を迎え祭ること。その手始めは、暮れの十三

日ごろ山から松の木を切り出し門松にする。

二十日から二十八日までに、煤払い、餅つき、正月飾りなどを済ませる。歳神祭りは大晦日の晩から始まり、正月の料理を神前に供えたり、神社などに集まって焚火を燃やし、夜通し起きている。元日には「若水」を汲んできて、竈に火を焚き付け雑煮をつくる。これらの一切は男だけの手で行なわれてきた。

「小歳」とか「小正月」と呼ばれる行事は正月の十五日を中心に行な

何にも買う物ア高うして、物が釣り合わんで、みんなきつきたい。見る見る隣へんも銭があるみゃー、次郎も太郎も借錢がううかで、田も畑も売るちゅうて走り回るげな。なれども、田も畑も良か所じゃなかで、きゃー（買い）手があるみゃー。それでこの頃アしじゅう内イおらん、どきイ行くもねろ。馬喰共が、あつちこつちおるで、馬の代ひつ掛けてえーつろ。それで足やー地イつかんごと、走つてさるくどつ

「ひゃーもう節季もおし詰まった。歳取りもでけん餅米もなか、小豆も世話アでけん。肴買う銭もなし、正中飲まんば腹がなる。年を取らんば馬鹿にする。取つていけん物ア年ばい。取つて善か物ア銭と米。行たて善か物ア極楽、往たていけんもなア地獄。こらこらこの節季も節季、こなつ

焼け田のような下田のため、一向に売れないのであらう。さらには馬を買った時の借金もまだ残っている様子、ばくりゅう（牛馬の仲買人）どんまでもがあつちこつちしている。馬喰の中にはそれこそヤラいかん人間もいるので、三十六計逃げるにしかず（三十六計とは兵法上の計りごとや駆け引きのこと）。百年以上経った今日でも、この状態は似たようなもの。

「おこらこらもう師走でみんな忙しか、忙しゅうして走つてされくばいぬ。この頃ア米アアでけたれども、

われてきた。球磨・人吉地方では「シュンナメジヨ」や「もぐら打ち」などが、今でも保育園や幼稚園で続けられている。このほかに餅花やアワボヒエボなども作られ、成り木責めとか嫁じよのヒュー叩き粥占いや左義長（どんど焼き）等々。

古くから使われてきた太陰暦（月の満ち欠けを基にした暦・旧暦）では十五日が満月。そのために月の出ない一日より心浮かれる晩であり、本来の年始だったのかも知れない。小正月は十三日ごろから始まり、「二十日正月」と呼ばれるころまで続いた。かつては、田んぼのまん中にユズリハが立ててあつた。

さんのような日間はござりもさんで、とばけた咄はうつちえーて明年正月春長う目出度うお咄聞き申そう」。

解説 ひゃー（早くも）師走ん「じゃー果て。それなのに無い無い尽くしはまだまだ続く。歳取り用の餅も掲げない、ましてや餡餅も。えーくそ一杯やひつかけて、と思つても焼酎や肴を買う銭も。銭と米は欲しいが歳はいらん、極楽やいずこ地獄は足元にある。

いよいよ来月は師走、せめて焼酎買う銭なつとどぎやかしておきましようや。師走の風は冷たか、風邪どもふきなはんもさんごと。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

字図で見る球磨の地名 ③③ 上村重次

瓜生田 (ウリウダ)

—人吉市下原田町—

国道219号を球磨村渡から人吉市に向かうと、球磨川支流の馬氷川に架かる新栗林橋を渡れば、もう人吉市下原田町字瓜生田であるが、普通は気付くこともない。文字にとらわれて「昔は瓜の名産地であった」と説明されても信じる気にはなれそうもない土地柄である。

しかし、市町村の境界地名に関心を持つておれば、瓜の字のつく地名があれば「ここはムラ境」ということがわかる。

「瓜にツメあり、爪にツメなし」と言つて漢字の瓜と爪の区別を覚えさ

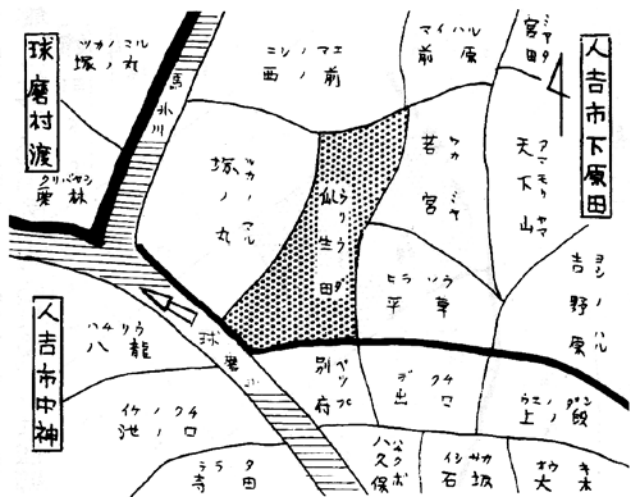
せられたが、地名用語としては瓜も爪も区域の先端表現である。

果菜の瓜はクワであるから西瓜(スイクワ)、冬瓜(トウゲワン)と漢音で呼ばれるのに対し、ウリは潤(うる)が語源という。胡瓜をキウリと言うのは熱すれば黄色になることから黄瓜の意ともされ、胡の国から伝えられたので胡瓜というのが訛つてキウリになったという説もある。

いずれにしても瓜が食物として伝えられたのは古い時代のもので、『萬葉集』巻五・802に

うりはめば こどもおもはゆ
宇利波米婆 胡藤母意保由
くりはめば ましてしぬばゆ
久利波米婆 麻斯提農婆由

して利用された。本来の表意文字になつたのは後のことであるが、地名用語の漢字の多くは表音文字のまま取り残され「地名は当て字」というのが常識化している。



理屈を並べ過ぎたが、瓜生田の瓜は古語の末枯(うらがれ)のウラ(末)がウル、ウリに変わった語に瓜の漢字が当てられたのである。真意は浦田であつたのが潤田の用字を経て更に瓜生田に変わるといふ社会的な用語変化の経緯も考えられよう。

人吉市と球磨村渡の境界は馬氷川であり、球磨川との合流点近くは兩岸とも字塚ノ丸である。恐らく境塚にちなむ地名であろう。瓜生田の東隣は平草(ヒラソウ)で、入会草地のヘリの意。また北側は中神町である。このように瓜生田は旧原田村のムラ区域の果てに位置する地名である。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

【おこわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

という子を思ふ長歌がある。このように和名としてのウリ(瓜)の歴史は古いのであるが、地名のルーツとなれば人間の歴史をはるかに超え、動物の縄張り宣言に始まる。

人は占有地表現に苦心しながら、木の枝を折つたり、串を刺したりしていたが、文字の発明後に地名文化を産み出した。日本の文字文化はせいぜい千数百年の歴史しかない。「まづ言葉ありき」の時代が永くつづいた後に、漢字が伝わつてから言葉に合う漢字が当てられた。

漢字は表意文字と言われるが、日本では萬葉仮名のように表音文字と

球磨川の駅・ものがたり

＝くま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一

■A5判 212頁オールカラー
■定価 1,650円(税込)

ご購入は人吉・球磨の書店、TSUTAYA 八代松江店、博多駅売店、くま川鉄道「くまたび」、道の駅さかもと、発行元の人吉中央出版社にどうぞ。

発行：人吉中央出版社 0966-23-3759

本誌に
31連載された
駅が二冊に

球磨川の駅・ものがたり

＝肥前線(川線)とくま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一





つるつる…
げっかん・ぎひょう

— 日本中に感動を与えてくれて、ありがとう!! —

前回のワールドカップから4年をかけて猛練習。予選リーグで4連勝。日本のチームは史上初の決勝リーグ進出! やれば出来る。南アに敗れたが勇気を与えてくれました。

外来語から学ぶ英単語 (44) …… 藤原 宏

リバティー・リベラル・リベラリスト・リベラリス・リベレーション・リベリア
liberty liberal liberalist liberalism liberation Liberia

フランス共和国の三色旗（白青赤）に象徴される「Liberte（リベルテ）、egalite（エガリテ）、fraternite（フラテルニテ）」（自由・平等・友愛）の liberte（リベルテ）が「liberty（リバティー）、自由・解放・気まま」に借用されました。

フランス語と同綴りの「liberal（リベラル）、寛大な・度量の大きい・とらわれない・厳しくない・気前のよい・自由主義の」は形容詞形ですが、名詞として「liberalist（リベラリスト）、政治・宗教上の自由主義者」の意でも使われます。

「liberalism（リベラリズム）、寛大であること・（政治・経済上の）自由主義」の接尾辞「-ism」は、「行動・態度・主義・説」などを表します。

「liberation（リバレーション）、（束縛からの）解放」は、動詞「liberate（リバレート）、解放する」の名詞形です。米国で1960年代に起こった男女同権運動を Women's Liberation、略して「Women's Lib（ウィミンズ リブ）、女性解放運動」といいます。

1847年に独立したアフリカ西部の共和国リベリア（Liberia）は、1822年に解放された米国の奴隷たちによって建国されたもので、「自由の国」を意味します。 (411)

俳句大学 Haiku University

Facebook 華文俳句社

永田満徳選評・洪郁芬訳

我們提倡使用「一個切」和「兩項對照組合」的二行俳句書寫

世界に二行書きによる「切れ」と「取り合わせ」を取り入れた Haiku を提案する

Kabun Haiku ①

簡淑麗

● 沉默地寫上旅途記事
秋意

〔永田満徳評論〕
當作者為旅途記事，秋意便湧上心頭。「秋意」の兩項對照組合暗喻，這次的旅途記事可能是跟很親密的人，或是跟愛人同行的一次記錄。

簡淑麗

● 黙々と紀行文を書く
秋意

〔永田満徳評〕
「紀行文」を書いているうちに、「秋意」が心に湧いてきたのであろう。「秋意」との取り合わせによると、この「紀行文」は恋人、あるいは親しい人とともに旅行した記録であるかも知れない。

盧佳璟

● 教師節
堆滿的喉糖罐
〔永田満徳評論〕

教學需要不停地發聲。認真的老師容易過度使用咽喉，因此喉糖成為他們的必需品。以「堆滿」的措辭使我們認識教師生涯殘酷的現實。

盧佳璟

● 教師の日
積み上げた咽喉飴の缶
〔永田満徳評〕

教えるということは声を出すことである。熱心な教師ほど「咽喉」を酷使するので、「咽喉飴」は欠かせない。「積み上げた」という措辞によって、過酷な教師の現実を切り取っている。

穆仙弦

● 掌心上の小詩
一葉之楓
〔永田満徳評論〕

放在掌心的一片楓葉本身就是一首短詩（俳句）。俳人只是把此發現如實的描寫。藉由作者的提醒，我們也重新體認這個事實。

穆仙弦

● 手のうちの短詩
一枚の紅葉
〔永田満徳評〕

掌に置いた「紅葉」そのものがすでに秋の「短詩」であると詠んでいる。俳人はそれを言葉に置き替えて、俳句にすればいいのである。言われて初めて気づく内容の句である。

【ながた・みつりの／俳人協会会員、熊本市】

編集後記

今年、県近代文化功労者に選ばれた故・渋谷敦さんは生前、多くの著作を通じて地元の歴史や人物を掘り起こした人である(43頁)。前田一洋さん、益田啓三さんのお祝いの言葉と共に、改めてその功績を紹介した。★先月号では、前山光則さんの新刊『ていねいに生きて行くんだ』を紹介したばかりだが、今月は上田精一さんの新刊『平和歌集生きる!』を紹介することが出来た(34頁)。お二人は友人でもあり、八代と人吉・球磨とに關係する、まさに流域の人である。今年、このお二人の本に触れることが出来たことは幸いであつた。★そして今年には弊社からも『球磨川の駅・ものがたり』を発刊することが出来たが、その取材の協力者である福井弘さんが亡くなった。松本晋一さんの「福井弘氏との22年間」(22頁)で追悼。膨大な写真を残され、肥薩線の歴史を調べ続けておられたが、「私は鉄道研究家ではなく、愛好家」と言われ続けたその謙虚な姿勢に頭が下がる。(ま)

〒868-0015

熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部

info@hiyoshi.co.jp

電話・ファックス 0966・23・3759

インフォメーション

11月9日(土)

▽第70回ひとよし産業祭および人吉市林業フェア(〜10日、人吉クラフトパーク石野公園・道の駅「人吉」)

▽第31回五木の予守唄祭(〜10日、五木村・五木源パーク)

▽第3回人吉球磨の偉人探訪講話(人吉市・老神神社)

11月10日(日)

▽第5回くまオーガニック祭り(道の駅「錦」・くらんど公園)

▽2019ゆのまえ漫画フェスタ(湯前町まんが美術館周辺一帯)

▽第33回坂本ふるさとまつり(八代市グリーンパークさかもと)

11月15日(金)

▽堀田英雄・絵画展(人吉市上薩摩瀬町「ポーノポー」イベントホール、〜19日)

11月17日(日)

▽第26回錦町文化祭(錦町勤労者体育センター)

▽やまえ産業振興まつり(山江村役場前駐車場)

11月22日(金)

▽八代妙見祭神幸行列(〜23日、八代神社周辺)

11月23日(土)

▽第73回大童球溪顕彰音楽祭「音楽の広場」(人吉市カルチャーバレス)

▽川上哲治生誕100年記念「偉業を伝える企画展」オーブン・ニングセレモニー(人吉クラフトパーク石野公園展示室)



TAKEDA Eye Clinic

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

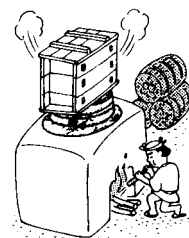
ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の技



◆納豆みそ
(お徳用)
300円 (税抜)

◆納豆みそ
(お徳用)
300円 (税抜)

御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)



◆玉子かけご飯
◆豆腐
◆お刺身に
300ml 650円 (税抜)



◆みそ煎餅
477円 (税抜)

人吉散策コース 九州名産 蔵めくら
みそ・しょうゆ蔵



釜田醸造所
会長 釜田 元
社長 釜田 嘉
社 長 釜田 顕

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp